

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目		
講義名	[00012] 倫理学						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
倫理学とはどのような学問であろうか。「日本倫理思想史」という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考えるために、特に古代の「神をめぐる思想」から、中世の「仏法をめぐる思想」について概説します。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指します。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を習得することを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
倫理学とは何かについて概観し、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいきます。講義によって授業を進めますが、学生の深い理解に資するよう積極的にICTを活用します。また受講生が自分自身の問題として主体的に授業に参加するようディスカッションなどを行います。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学修としては、参考書等に目を通し、疑問をもって授業にのぞむこと。事後学修は、授業の内容を踏まえ、その問題について自分なりに考えてみること。事前・事後学修は最低でも各120分は必要である。なお、詳細は授業中に指示します。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業に取り組む姿勢40%、レポート60%で総合的に評価します。毎回授業後にリアクションペーパーを配付し、講義内容、意見・感想等を書いてもらいます。授業に取り組む姿勢は、このリアクションペーパーに基づいて評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	倫理学とは何か（1）倫理学と日本倫理思想史						
第3回	倫理学とは何か（2）なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、倫理の重層性						
第4回	神をめぐる思想（1）風土と神						
第5回	神をめぐる思想（2）日本の神の特徴						
第6回	神をめぐる思想（3）神と景観、祭祀						
第7回	神をめぐる思想（4）日本神話の発生と展開						
第8回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の概要						
第9回	神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の世界観						
第10回	仏法をめぐる思想（1）インド・中国仏教						
第11回	仏法をめぐる思想（2）日本における仏教の受容、聖徳太子						
第12回	仏法をめぐる思想（3）国家仏教、本地垂迹説						
第13回	仏法をめぐる思想（4）修験道						
第14回	仏法をめぐる思想（5）鎌倉仏教						
第15回	全体のまとめ プレゼンテーション						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：特に指定しない。参考書：『日本倫理思想史 増補改訂版』佐藤正英著（東京大学出版会）2012年、『日本の思想とは何か：現存の倫理学』佐藤正英著（筑摩書房）2014年、『古事記神話を読む 神の女 神の子 の物語』佐藤正英著（青土社）2011年ほか。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
受講生一人一人が自らの問題として捉え、自分自身の考えを形成することを望みます。授業では、毎回受講生に積極的に問いかけ、自分の考えを発言してもらいます。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日第1時限目と木曜日第5時限目							
<b>【実務経験】</b>							
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目		
講義名	[00016] 歴史学						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらう。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	歴史学とはどういう学問か						
第2回	史実と伝承						
第3回	日本史の時代区分						
第4回	史（資）料とは						
第5回	旧暦と新暦						
第6回	日本の元号（1）						
第7回	日本の元号（2）						
第8回	日本歴史に関する調べ学修（1）						
第9回	日本歴史に関する調べ学修（2）						
第10回	日本歴史に関する調べ学修（3）						
第11回	日本歴史に関する調べ学修（4）						
第12回	調べ学修についての発表						
第13回	歴史散策1						
第14回	歴史散策2						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
歴史について調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験がある。							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目		
講義名	[00032] 人間関係とコミュニケーション【平成30年度生まで】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
最近重要視される「コミュニケーション能力」とは何か、何を指してコミュニケーション能力とのか、幅広い領域にわたる「コミュニケーション」について、具体的な技術も含めて様々な角度から「コミュニケーション」について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
コミュニケーションを形成する上で必要な人間の関係性を理解し、人間関係、コミュニケーションの基礎的な知識について学習します。また、自分の言いたいことを他者に理解できるよう具体的に述べられる力を身に着けることを、本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解できるよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポート（60%）、授業内テスト（20%）、授業参画度（20%）授業参画度は毎回のリアクションペーパーにより総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（ラポール）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーションの技法（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション（プレゼンテーション）				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	まとめ・総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）					
<b>【実務経験】</b>					
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目		
講義名	[00033] 人間の尊厳と自立 法定科目				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	1 年	2 年	--	--	
担当者	村瀬 正光	ムラセ マサミツ	murase masamitsu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。人間の尊厳と自立を理解する為、基本的人権の理念、人権侵害等の社会問題を通して学ぶ。介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
講義毎の予習と復習のレポート：100%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	人間の多面的理解				
第2回	人間の尊厳と人権・福祉理念				
第3回	人間の尊厳 普遍的尊厳				
第4回	人間の尊厳 個別的尊厳・多様性				
第5回	自立の概念				
第6回	事例を通して「自立・自律」を考察				
第7回	事例を通して「自立・自律」を考察				
第8回	人権と尊厳 基本的人権				
第9回	権利擁護				
第10回	アドボカシー				
第11回	人権尊重				
第12回	スティグマ				
第13回	身体的な自立支援				
第14回	精神的な自立支援				
第15回	社会的な自立支援				
<b>【教科書・参考書】</b>					
『介護概論』三訂 介護福祉士養成講座 1 2 福祉士養成講座編集委員会（編） 中央法規					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
積極的に授業に参加するのを望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
腎臓内科医					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00034] 山梨県と峡南地域				
期間	通年（15回）		単位数	選択（2）	
種類	集中				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
3回それぞれの巡見のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
巡見した際の授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。 「やまなし観光カレッジ」事業のレポート提出も評価の対象とする。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習				
第2回	巡見1回目				
第3回	巡見1回目				
第4回	巡見1回目				
第5回	巡見1回目				
第6回	2回目巡見場所の調べ学習				
第7回	巡見2回目				
第8回	巡見2回目				
第9回	巡見2回目				
第10回	巡見2回目				
第11回	3回目巡見場所の調べ学習				
第12回	巡見3回目				
第13回	巡見3回目				
第14回	巡見3回目				
第15回	巡見3回目				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特になし。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限となります。3回の開講日に注意してください。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp					
<b>【実務経験】</b>					
望月真澄：峡南地域の博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：身延山宝物館の学芸員として勤務。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00035] 留学成果による単位認定				
期間	通年（1回）	単位数	選択（30）以下		種類 認定
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	学長				
	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
交換留学生の単位を認定します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回					
<b>【教科書・参考書】</b>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00037] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。

キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域の課題を明確にする。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化して行う。

**【成績評価（方法・基準）】**

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？
第2回	活動計画の構成と計画書の作成
第3回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正
第14回	解決案の事業者への提案
第15回	事後報告会と全体の振り返り

**【教科書・参考書】**

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

**【学生へのメッセージ】**

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目  
ボランティアとは、「助ける」と「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。

**【オフィスアワー】**

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

**【実務経験】**

元身延町教育委員

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00039] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	--------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。サービスラーニングとの継続でも可であるが、なるべくならば他社、他所での異なる体験を積むことを良とする。

キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を実践できる力を成果とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域課題への解決を図る活動を行っていく。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化する。

**【成績評価（方法・基準）】**

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画立案
第2回	活動計画書の具体的な作成
第3回	地域活動
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	地域活動
第13回	事後の振り返り、報告書作成
第14回	事後報告会
第15回	事後報告会と全体の振り返り

**【教科書・参考書】**

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

**【学生へのメッセージ】**

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

**【オフィスアワー】**

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

**【実務経験】**

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目		総合科目		
講義名	[00044] 人間関係とコミュニケーションの基礎【平成31年度生より】 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	中野 宏子	ナカノ ヒロコ		nakano hiroko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
<p>(1) 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。  (2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。人間関係の形成が、介護実践にとっての出発点であり基本的課題であることを、自己覚知や他者理解、コミュニケーション技術を通して学習する。</p>					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームマネジメントにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解するよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト、リアクションペーパー、授業への取り組み姿勢等を総合的に評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（ラポール）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	まとめ・総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
『教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）					
<b>【実務経験】</b>					
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00045] 身延町の福祉文化				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
2020年度は講義と演習、そして学外において聞き取り調査を行い、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方などにへの理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの習得をおこなう。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
われわれが暮らしている「地域」ある福祉の多様性を理解し、豊かな「暮らし」を障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の「地域」にある福祉文化を概観し、その実像を把握できるようになることを目的の第一とする。インターネット上から得られる情報をプロジェクターを用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられようになることが目的の第二である。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになることが目的の第三である。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。大学を離れて地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学習型の演習形式、そして実験的な観察形式によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、外部に赴き、「超高齢化社会のまちづくり」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
講義形式：事前に指定された事項の理解に120分、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに120分程度が必要となる。演習形式：得られた情報加工をするために、事前に120分、事後には120分程度は必要となる。実践形式：実際の現場に出て情報を収集することに120分、得られた情報を整理加工することに120分までが事前学修、事後はプレゼンテーションの不具合の訂正や修正に150分程度は必要となる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
講義形式30%（プレゼンテーション20%、講義中の取り組みに10%）、演習形式ではプレゼンテーション発表に20%とその取り組みに10%、実践形式では、講義形式と演習形式の基礎を踏まえているかどうかにかんして20%、最終のプレゼンテーションに20%、その取り組みに10%となる。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲				
第2回	身延町を理解しよう				
第3回	身延町の福祉実践と民間の活動				
第4回	資料からみることができる身延町の福祉（1）				
第5回	資料からみることができる身延町の福祉（2）				
第6回	プレゼンテーション（1）				
第7回	地域図書案の活用（地域情報の入手と加工）				
第8回	地域図書館の活用（情報加工技術）（1）				
第9回	地域図書館の活用（情報加工技術）（2）				
第10回	プレゼンテーション（2）				
第11回	福祉に関する地域課題の検出（PBL型）アンケート項目の設定				
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）アンケート内容の検証				
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第14回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第15回	身延町の福祉文化の多様性理解と問題解決策のプレゼンテーション（3）				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書は特になし。授業において適宜に紹介する。参考書も授業において紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目「福祉文化」という聞き慣れない言葉であるが、欠席することなく履修していただきたい。履修した学生で質問をお持ちの方は、ikegami(a)min.ac.jpまで、メールにて質問するようにしてください。					

**【オフィスアワー】**

池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。

高橋賢充：火曜日8:50～10:20 水曜日10:25～11:55

**【実務経験】**

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

高橋賢充：社会福祉士資格・精神保健福祉士資格・北海道社会福祉協議会・札幌市麻生総合センター館長・厚真町地域包括支援センター社会福祉士

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[00508] 仏教福祉学概論				
-----	-----------------	--	--	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

仏教と社会福祉の関係を、仏教発祥の地インドから概観して、現代の社会福祉の問題点を、仏教的活動からどのように理解できるかを考察する。また、仏教は、自己と他者との関係について、特に優れた思想を有している。この思想を社会福祉学の観点から捉えなおし、現代的エートスに置き換えることが可能かどうかを考察する。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

本学の教育の三本柱の一つである社会貢献を実現してゆくために、現代の福祉社会に有益な思想体系として再構築されたものを仏教福祉学と位置づけて、その概要を把握することを目的とする。そのため、仏教思想に裏付けられた福祉ワークの重要性を理解し、現代の社会福祉へどのようなアプローチが可能かについて、立案し自ら主体的に考えられるようになることを目標とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

テキストにそって、プロジェクターなどを用いて、解説を加える講義形式である。必要な資料は、予め本学HP上にあるファイルキャビネットに収納してあるので、そこからダウンロードすること。講義中には、専門用語に関する質問や、課題を出すので、検索用使用するタブレットは必携である。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

事前学修について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容をテキストページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約2時間を要する。事後学修について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学修などに約2時間を要する。

**【成績評価（方法・基準）】**

最終確認テスト50%、授業中の取り組み30%、中間レポート10%、ノート提出10%。授業中の取り組みの基準は、テキストの当該箇所の理解と、質問、授業中の積極的な姿勢により判断する。中間レポートの内容は、テキスト・資料の理解が深まっているかを判断する。ノート提出は、事前事後の学修成果も含んだ講義内容についてまとめたものを、最終回の講義終了1週間以内に提出してもらう。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	オリエンテーション - 授業の進め方とテキストと資料の紹介 -
第2回	仏教社会福祉とは何か？(テキストpp.9-31)
第3回	仏陀の教え - 自己と他者、四無量心、四正勤、福田思想 - (テキストpp.109-118)
第4回	大乘仏教の思想と社会福祉 - 菩薩、縁起、回向、平等、報恩、救済 - (テキストpp.109-118)
第5回	仏教社会福祉のあゆみ(1) - 先人の偉業 - (テキストpp.35-43)
第6回	仏教社会福祉のあゆみ(2) - 近代～戦後 - (テキストpp.44-64)
第7回	仏教社会福祉の支援(1) - 生活弱者支援 - (テキストpp.67 73、101-106)
第8回	仏教社会福祉の支援(2) - 高齢者支援 - (テキストpp.80-88、130-137)
第9回	仏教社会福祉の支援(3) - 子育て支援 - (テキスト pp.74-79、140-148)
第10回	仏教社会福祉の支援(4) - 地域福祉 - (テキストpp.95-100)
第11回	仏教社会福祉の支援(5) - 看取りのケア - (テキストpp.89-94)
第12回	仏教社会福祉の支援(6) - 司法福祉 - (テキストpp.159-169)
第13回	仏教社会福祉の支援(7) - 障害者福祉 - (テキストpp.149-158)
第14回	仏教社会福祉の有効性(テキストpp.119 128、170-189)
第15回	まとめと評価

**【教科書・参考書】**

教科書：『仏教社会福祉入門』日本仏教社会福祉学会編（法蔵館）。辞書では、『仏教社会福祉辞典』仏教社会福祉学会編(法蔵館)が唯一である。参考書は、『吉田久一著作集』全7巻(川島書店)、『佛教福祉研究』水谷正行先生古希記念会編(思文閣出版)、『仏教福祉の思想と展開に関する研究』清水海隆著(大東出版社)、『佛教と福祉の研究』龍谷大学短期大学部編(永田文昌堂)、『仏教社会福祉論考』中垣昌実著(法蔵館)、仏教とビハラー運動』田代俊孝著(法蔵館)、季刊『佛教』第51号 - 介護と佛教福祉 -、など多数あるので詳細はオリエンテーション時に紹介する。

**【学生へのメッセージ】**

大学コンソーシアムやまなし単位互換科目  
2年次以降の受講を希望する。ある程度専門的な用語の理解ができなければ、授業の進展についてくるのが困難であると考えられる。ゆえに、法学、日本国憲法、仏教学入門、倫理学、日蓮学入門の各科目の単位取得後の履修が望ましい。そして欠席しないこと、特に福祉に携わる人の基本は他者の言葉を傾聴できるかどうかにある。

**【オフィスアワー】**

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。

**【実務経験】**

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[00509] デス・エデュケーション				
期 間	後期（15回）		単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例と一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
講義毎のレポート100%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）				
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に）				
第3回	倫理学（自由主義の原則）				
第4回	生殖医療の現状 1				
第5回	生殖医療の現状 2				
第6回	終末期医療の現状 1				
第7回	終末期医療の現状 2				
第8回	臨死体験のワーク				
第9回	日蓮聖人の終末期				
第10回	精神疾患について（自死、自殺）				
第11回	グリーンワーク				
第12回	傾聴				
第13回	終活、事前指示				
第14回	医療現場における宗教者				
第15回	ビハラーについて（長岡西病院ビハラー病棟）				
<b>【教科書・参考書】</b>					
授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
積極的に授業に参加することを望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
腎臓内科医					

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[00510] 総合仏教					
期間	通年（1回）		単位数	必修（2）		種類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年		
担当者	学務委員長					
	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座を聴講し、その意味するところをレポートし、資質向上に供するのである。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
この授業では、身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質向上と、社会貢献できる人材となることを目的とする。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の聴講を出席し、レポートを作成、提出することが課せられる。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
三大会などは、その意義を事前によく学習すること（120分以上）。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学習に120分以上、その後のレポート作成に120分以上が必要である。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	上記の評価の方法及び基準に従うこと。					
<b>【教科書・参考書】</b>						
特になし。						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もらずに聴講すること。 年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。						
<b>【実務経験】</b>						
宗教法人智寂坊代表役員						

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目		専門基礎科目		
講義名	[00512] 社会福祉概論 法定科目				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--	
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ	takahashi masamitsu	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
相談援助活動の背景について理解する。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
試験（50％）、レポート・リアクションペーパー（30％）、学習態度（20％）などを総合的に評価。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	現代社会における福祉制度と福祉政策 (1)福祉制度の概念と理念				
第2回	(2)福祉政策の概念と理念				
第3回	(3)福祉制度と福祉政策の関係				
第4回	(4)社会と生活のしくみ				
第5回	福祉制度の発達過程 (1)前近代社会と福祉				
第6回	(2)戦後の社会福祉				
第7回	(3)社会福祉基礎構造改革と社会福祉の変遷				
第8回	(4)地域包括ケアシステムと地域共生社会				
第9回	福祉政策におけるニーズと資源 (1)需要とニーズの概念				
第10回	(2)資源の概念				
第11回	(3)資源の概念				
第12回	(1)福祉政策と社会問題				
第13回	(2)福祉政策と社会問題				
第14回	(3)福祉政策の現代的課				
第15回	(4)福祉政策の課題と国際動向				
<b>【教科書・参考書】</b>					
中央法規出版 社会福祉士養成講座 「現代社会と福祉」第4版。授業中に適宜プリントを配布する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日 1 限目と水曜日 2 限目。e-mail : ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。					
<b>【実務経験】</b>					
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務					



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目		
講義名	[00513] 社会福祉概論 法定科目						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	--	--			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について理解する。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前課題：毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題：授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
試験（50％）、レポート・リアクションペーパー（30％）、学習態度（20％）を総合的に評価。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	福祉政策の構成要素 (1)福祉政策の論点						
第2回	(2)福祉政策の論点						
第3回	(3)福祉政策の論点						
第4回	福祉政策における政府の役割						
第5回	福祉政策における市場の役割						
第6回	福祉政策における国民の役割						
第7回	福祉供給部門 (1)政府部門、民間部門						
第8回	(2)ボランティア部門、インフォーマル部門、その他						
第9回	福祉供給過程						
第10回	福祉利用過程 (1)スティグマ、情報の非対称性						
第11回	(2)受給資格とシティズンシップ、その他						
第12回	福祉政策と関連政策 (1)福祉政策と教育政策						
第13回	(2)福祉政策と住宅政策						
第14回	(3)福祉政策と労働政策						
第15回	相談援助活動と福祉政策の関係 - 福祉供給の政策過程と実施過程						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新・社会福祉士養成講座1 現代社会と福祉（第4版）』福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版 2015年。資料は適宜配布する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。社会福祉概論 は社会福祉概論 の学びが基礎となる。社会福祉概論 を修了してから受講することが望ましい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日1限目と水曜日2限目。e-mail：ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。							
<b>【実務経験】</b>							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[00531] 発達心理学
-----	---------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

対人援助では、他者を理解する枠組みや理論などの根拠が求められます。その一つの視点として、本授業では人の受精から老年期までの発達の過程について考え、発達の基礎理解から対人援助につなげることを目指します。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

発達心理学は、人の受精から老年期までの生涯にわたる個人的発達について研究する学問である。この授業では、生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。この授業を受講することで、人は生涯どのように発達し、そのプロセスにおいて心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退がどのように起こるのか、理解することが可能である。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

基本的には指定した教科書に載っている重要な事項について解説し、その内容について受講生が理解し、考えることができるような授業を行う。必要に応じて、ディスカッションも行う予定である。また、教科書に載っていないような日常の出来事や事例、映像資料等を紹介し、用語を身近なものとして理解できるようにする。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学習では、学んだ内容についてプリントやノートにまとめ、課された課題を行ってこること。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%：10%×3回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	オリエンテーション / 発達するとはどういうことか・生涯発達の考え方
第2回	生命の芽生えから誕生まで
第3回	赤ちゃんがとらえる世界
第4回	乳児のコミュニケーションと人間関係の発達
第5回	愛着理論 愛着関係の成立と個人差 / 小テスト1
第6回	ことば遊びの発達
第7回	かかわりの中で育まれる自己
第8回	仲間の中での育ち
第9回	学童期の発達 学校での学び / 小テスト2
第10回	思春期・青年期の発達
第11回	大人になるために - 親になること働くこと
第12回	かかわりの中で成熟する
第13回	老いることと発達 人生を振り返る
第14回	発達におけるつまずきへの理解 / 小テスト3
第15回	まとめ：授業の振り返りとディスカッション

**【教科書・参考書】**

教科書：『問いからはじめる発達心理学 - 生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著（有斐閣ストゥディア）2014年、参考書：『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子・菅野幸恵・塚田城みちる著（新曜社）2004年、『実践・発達心理学第2版』青木紀久代編（みらい）2017年、そのほか、適宜授業中に紹介する。

**【学生へのメッセージ】**

発達心理学は生まれてから死に至るまでの人間の生涯発達を学ぶ学問です。他者理解のみならず、自己理解にも役立つ実践的な科目です。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習して欲しいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

**【オフィスアワー】**

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

**【実務経験】**

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00532] 仏教学概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
この授業では、仏教学の基礎的知識を修得するために基本的な仏教用語の意味を学びます。仏教学の伝統において教科書として用いられてきた『俱舎論』に基づいて仏教教義の基本を解説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義では、仏教思想形成する基礎知識を理解することを目的とする。これらの用語を理解することにより、仏教学のさらなる知識を習得できるようになるであろう。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舎論』を用いて講義を行う。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	小乗と大乘について			
第3回	アビダルマについて			
第4回	『俱舎論』とヴァスバンドゥ			
第5回	存在の基盤について			
第6回	認識について			
第7回	存在について			
第8回	世界の形成について			
第9回	行為について			
第10回	煩惱について			
第11回	修行階梯について			
第12回	智について			
第13回	禅定について			
第14回	我について			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：世親（ヴァスバンドゥ）著『阿毘達磨俱舎論』（大正新修大蔵経、No.1558）。				
参考書：桜部建『俱舎論』（大蔵出版）1981年、桜部建『存在の分析』（角川文庫）1996年、青原令知編『唯識 絶ゆることなき法の流れ』（自分照出版）2015年。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 『俱舎論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学習内容を学んでもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00537] 法華経概論			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	庵谷 行亨	オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
法華経の概要について学修します。成立、原典、構成、思想内容、仏教における位置づけなど、法華経の基本的事項について概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本授業では、法華経の概要を総合的に理解することにより、法華経の教えをとおして大乘仏教の基本的思想や日本仏教の原点および天台大師・伝教大師・日蓮聖人の法華仏教の内容を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
法華経の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト（80％）、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	法華経の成立			
第2回	法華経の原典			
第3回	法華経の構成			
第4回	法華経説法の場所			
第5回	法華経説法の開始			
第6回	日本仏教における法華経の位置づけ			
第7回	法華経迹門の思想			
第8回	法華経本門の思想			
第9回	法華経の開会思想			
第10回	法華経の題号喩			
第11回	法華経品中の譬喩			
第12回	法華経の菩薩思想			
第13回	法華経の娑婆即寂光思想			
第14回	法華経の世出不二思想			
第15回	法華経学修のまとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
講義内容の関係から後期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人宗長寺代表役員				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目	
講義名	[00538] 法華経概論				
期 間	後期（15回）	単位数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
法華経各品の概要について学修します。とくに方便品第二・如来寿量品第十六・如来神力品第二十一などの主要品をはじめ、虚空会の思想や起顕竟の法門など、法華経各品の基本的事項について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、法華経各品の概要を総合的に理解することにより、法華経全体の思想内容を印度・中国・日本の三国仏教を踏まえて把握し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
法華経各品の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト（80％）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20％）を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	序品第一・方便品第二				
第2回	譬喩品第三・信解品第四				
第3回	薬草喩品第五・授記品第六				
第4回	化城喩品第七・五百弟子受記品第八				
第5回	授学無学人記品第九・法師品第十				
第6回	見宝塔品第十一・提婆達多品第十二				
第7回	勸持品第十三・安楽行品第十四				
第8回	従地涌出品第十五・如来寿量品第十六				
第9回	分別功德品第十七・随喜功德品第十八				
第10回	法師功德品第十九・常不軽菩薩品第二十				
第11回	如来神力品第二十一・嘱累品第二十二				
第12回	薬王菩薩本事品第二十三・妙音菩薩品第二十四				
第13回	観世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六				
第14回	妙莊嚴王本事品第二十七・普賢菩薩勸発品第二十八				
第15回	法華経全体のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講義内容の関係から前期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00539] 宗学概論			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	桑名 法晃	クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
宗学とは何か、宗学を学ぶ意義を確認し、宗学の基本事項となる五義や三大秘法などの教義を概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
宗学とは何であるか、その意義を認識し、宗学の内容を体系的に理解し自分の言葉で説明することができる力を身につけ、自らが主体的に実践していく素地を築くことを、本授業の目標とします。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
宗学とは何であるのか、なぜ学ぶのかということをしっかり抑え、その上で、宗祖の教えについて講義を行います。授業の中でリアクションペーパーを用いて毎回自分の意見等を書いてもらうことと、口頭で質問をし、受講生が自らの考えを発表、ディスカッションをおこなっていきます。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
試験(80%)、平常点(20%)。平常点はリアクションペーパーの内容、授業内における質問等によって評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	宗学概論の意義			
第2回	宗祖 その1			
第3回	宗祖 その2			
第4回	体系（相承）			
第5回	五義 その1			
第6回	五義 その2			
第7回	三大秘法 その1			
第8回	三大秘法 その2			
第9回	信行			
第10回	成仏			
第11回	靈山往詣			
第12回	摂折			
第13回	祈祷			
第14回	僧俗			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：なし。参考書：『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編(日蓮宗新聞社)1989年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2003年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編(東京堂出版)1981年等。その他、授業の中で紹介していきます。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
「日蓮学入門」を受講し、しっかり理解した上で併せて受講することを望みます。自分なりにまとめてわかりやすいノートを作成し、授業内で理解できない事柄は必ず図書館などで納得できるまで調べて下さい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日1時限目と水曜日2時限目				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05102] 社会福祉体験実習研究【平成30年度生まで】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	--	--
担当者	建守 善之		タテモリ ヨシユキ	tatemori yoshiyuki
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
社会福祉とはどのような学問なのか、「福祉」をテーマに制度と支援技術などを学び、これからの福祉問題にも触れ専門知識と援助技術を取得する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
社会福祉体験実習に臨む際の基本的な知識・技術及び留意事項を学ぶ。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義、実技演習、グループワーク				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
毎回のリアクションペーパー（10%）、授業で出される課題（10%）、レポート（30%）、学力確認テスト（50%）				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	社会福祉、障害児教育の基本理念			
第3回	視覚障害、聴覚障害、言語障害			
第4回	運動障害、知的障害、病弱・虚弱			
第5回	ダウン症、てんかん、その他の障害			
第6回	盲・聾・支援学校の教育			
第7回	社会福祉施設の定義、種類			
第8回	福祉サービスの種類			
第9回	高齢者にかかわる施設			
第10回	グループワーク			
第11回	児童福祉・障害児にかかわる施設			
第12回	グループワーク			
第13回	介護実技			
第14回	介護実技			
第15回	総括・実習事前説明			
<b>【教科書・参考書】</b>				
授業中に指定します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
社会福祉体験実習につながる大切な講義です。集中して受講してください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日 14:00から17:00、水曜日 14:00から15:30				
<b>【実務経験】</b>				
社会福祉体験実習に向けて、模擬授業を行い、社会人として必要な知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05132] 教職論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ		tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
教師の仕事とは何か、教員養成制度、教師の専門性と職務内容、子ども、同僚、保護者、地域との関係などについて、概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
この授業では、まず教職の意義について学び、教師の職務、教職の専門性、同僚との関係、最後に現在教師が直面する実践上の課題を検討する。教師の仕事、現代の教師が直面する課題を理解することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書は『新しい時代の教職入門』を使用するが、適宜 授業資料を配布し参考文献を紹介する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分：指示されたテキストをあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートをまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション 教職とは何か				
第2回	教師の日常世界				
第3回	子どもをつかむことの意義				
第4回	授業をつくる				
第5回	授業から学ぶ				
第6回	カリキュラムをつくる				
第7回	生活指導の課題				
第8回	戦後教育史のなかの教師（1）				
第9回	同上（2）				
第10回	教師のライフステージ				
第11回	学校づくり				
第12回	生徒とともに学校をつくる				
第13回	教師の懲戒権と体罰				
第14回	教職の専門性				
第15回	教育改革と教師 まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 無着成恭編『山びこ学校』（岩波文庫）、今橋盛勝・牧証名編『教師の懲戒と体罰』エイデル研究所、教育科学研究会 学校部会編『子ども観の転換と学校づくり』（国土社）、尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』（岩波新書）、秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』（有斐閣）、柴田義松・山崎準二編『教職入門』（学文社）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05133] 教育課程論				
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ		tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
教育課程とは何か、その原理、歴史的変遷、現代の学校が直面する課題について、概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
教育課程とは、学校において教師集団が行う教育活動の計画であり、子どもの人格形成について学校が描く設計図である。授業では、戦後の教育課程の変化を理論的歴史的に検討し、その後個別の課題について学んでいく。教育課程の基礎理論と変遷を学び、現在直面する課題について理解することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書は最初の授業時に指示する。また適宜資料を配布し参考文献を紹介する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む学力確認テスト70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション。教育課程とは何か				
第2回	教育課程、学習指導要領の法令上の位置づけ				
第3回	学習指導要領の変遷（1）1947年版から1958年版				
第4回	学習指導要領の変遷（2）1968年版から1989年版				
第5回	学習指導要領の変遷（3）1998年版から2008年版				
第6回	現行学習指導要領の特徴				
第7回	教育課程の構成要件				
第8回	教育課程の編成原理				
第9回	各教科・領域における横断的指導の理論				
第10回	各教科・領域における横断的指導の実際				
第11回	カリキュラムマネジメントの意義と実際				
第12回	カリキュラム評価の基本的考え方				
第13回	教育課程の現代的課題（1）市民性の教育				
第14回	教育課程の現代的課題（2）環境教育				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書 田中耕治ほか編著『新しい時代の教育課程第4版』（有斐閣 2018年）を使用する。このほかに適宜資料を配布する。文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版を参考資料として使用する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05134] 特別活動の研究【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
特別教育活動とは何か、その理論、制度上の位置づけと変遷、生徒の自治能力を育む実践的課題について、概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
学習指導要領では、中学・高校の教育課程を構成する教育活動のうち、教科指導、道徳、総合的学習以外の領域を特別活動と呼んでいる。授業では、子どもの自律性と自治的能力をどう育成するかということに焦点を当て、これまでの議論を整理しながら、実践的課題について検討していく。特別活動の歴史的変遷と現代直面する課題と主要な実践について理解することを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学習120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション。現代における特別活動の意義			
第2回	日本教育史における特別活動の歩み（1）戦前			
第3回	日本教育史における特別活動の歩み（2）戦後			
第4回	学級活動と学級集団づくり			
第5回	生徒会活動と自治能力の育成			
第6回	クラブ活動			
第7回	学校行事の意義とその内容（1）入学式、卒業式			
第8回	学校行事の意義とその内容（2）修学旅行			
第9回	学校行事の意義とその内容（3）文化祭			
第10回	学校行事の意義とその内容（4）体育祭			
第11回	長野・辰野高校学校三者会議の実践			
第12回	長野・軽井沢高校「軽高会議」の実践			
第13回	修学旅行の企画づくり（1）			
第14回	修学旅行の企画づくり（2）			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
竹内常一『おとなが子どもと出会うとき、子どもが世界を立ちあげるとき』（桜井書店）、浦和商業高校定時制四者協議会編『この学校がオレを変えた』（ふきのとう書房）、宮下与兵衛『学校を変える生徒たち』（かもがわ出版）、宮下聡『中学生の失敗する権利、責任をとる体験』（ふきのとう書房）				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05135] 道德教育の研究【平成30年度生まで】
-----	----------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	櫻井 勲	サクライ カン	sakurai kan
-----	------	---------	-------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

道德教育とは何か。人が道徳的に行為するとはどのようなことか。本科目ではこうした原理的な問いを大切にしながら道德教育への理解を深められるよう、その理論や歴史を概説するとともに、「学習指導要領」や「道德科」教材の研究、受講生による模擬授業とその検討などを行う。キーワード：道德教育、学習指導要領、模擬授業

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

上記のような授業内容を学習することにより、道德教育の目標や内容、指導計画などを理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業などを通して、実践的な指導力を身に付けることを到達目標とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングの一環としての小グループによる意見交換、模擬授業などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介し、コメントする。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習がこれに劣らず重要である。各回の授業の復習のほか、テキストや配布プリントの予習、さらに学習指導案の作成、模擬授業の準備などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる（各回120分以上の事前・事後学習を行うこと）。

**【成績評価（方法・基準）】**

学習指導案・模擬授業等の課題の達成度（40％）と学力確認テスト（60％）により評価する。学力確認テストでは、道德教育に関する基本的知識を獲得し、的確な言葉で道德教育について論述することができたかを評価基準とする。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	開講にあたって（ガイダンス、導入の「道德」クイズ）
第2回	道德をどう捉えるか 道德の概念
第3回	道德性の発達と教育をめぐる理論
第4回	道德教育の歴史（1）西洋
第5回	道德教育の歴史（2）日本
第6回	現代社会の道德教育課題（いじめ・情報モラルなど）【ICT機器の活用】
第7回	宗教教育と道德教育
第8回	「学習指導要領」にみる道德教育【グループワーク】
第9回	学校の教育活動全体を通じての道德教育
第10回	「特別の教科 道德」（道德科）の学習指導案
第11回	道德科の学習評価
第12回	道德教育教材の研究
第13回	道德教育実践の研究【映像教材の活用】
第14回	模擬授業の実施とふり返り【プレゼンテーション】
第15回	学力確認テストと授業のまとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：『道德教育の批判と創造』藤田昌士・奥平康照監修（エイデル研究所）2019年。参考書：『道德教育 その歴史・現状・課題』藤田昌士著（エイデル研究所）1985年、『道德教育の理論と方法』羽田積男・関川悦雄編（弘文堂）2016年、『中学校学習指導要領』（文部科学省）2017年。

**【学生へのメッセージ】**

受講生と担当講師、また受講生相互間での積極的な意見交換を通じて、道德教育への理解を深められるような授業としたい。学生諸君の意欲的な参加に期待する。なお、受講希望者は初回の授業より出席し、受講の意思表示を行うこと。

**【オフィスアワー】**

各回授業後に教室にて相談などを受け付ける。

**【実務経験】**

なし

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05136] 教育方法論【平成30年度生まで】
-----	--------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

**【成績評価（方法・基準）】**

(1) レポート(30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解)、(2) 授業中・事前・事後小レポート(40%：上記項目1と同じ)、(3) 授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献(30%)

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について。
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習。秋田喜代美・キャサリン ルイス。明石書店。2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態。日本教育方法学会。学文社。2009年。授業研究と学習過程。秋田喜代美。放送大学教育振興会。2010年。授業研究と教育工学。教育工学選書 第6巻。水越敏行他。ミネルヴァ書房。2012年。教育の方法と技術。平沢茂 編著。図書文化社。2014年。幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領。

**【学生へのメッセージ】**

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点、改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

**【オフィスアワー】**

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

**【実務経験】**

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05138] 社会福祉体験実習【平成30年度生まで】			
期間	通年（1回）	単位数	必修（1）	種類 実習
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
社会福祉の制度はどのような学問か、福祉の制度を中心に学習し介護技術等の支援方法を学び専門知識と援助技術を取得する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
高齢者福祉施設や、支援学校での実習を通して社会福祉及び介護等の体験を行う。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
実習内容の詳細は各実習施設及び支援学校の実習指導者の指示に従うこと。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
全日程出席の上、実習先の指導者評価50%、実習記録50% 実習前に授業・前日の実習内容を必ず復習すること、実習後は内容の習得が得られるよう反復すること。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	社会教育主事及び社会福祉主事資格取得の場合：高齢者福祉施設実習 5日間 教育職員免許状取得の場合：高齢者福祉施設実習 5日間・支援学校 2日間			
<b>【教科書・参考書】</b>				
必要に応じて指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実習は一瞬の不注意が大きな怪我や事故につながる恐れがあります。細心の注意を払ってください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：00から15：30				
<b>【実務経験】</b>				
教育実習と高齢者施設実習に向けたオリエンテーションや模擬授業を行い、専門知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05201] 社会教育計画 【平成31年度生まで】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)						
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政						
第3回	社会教育の意義と内容						
第4回	社会教育の方法・形態						
第5回	公民館とは						
第6回	図書館とは						
第7回	博物館とは						
第8回	コミュニケーション・スキル						
第9回	ワークショップの技法						
第10回	集団思考法、組織心理学						
第11回	コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー						
第12回	プランニング						
第13回	プレゼンテーション						
第14回	ワークショップの計画						
第15回	ワークショップの実際						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義の中で適宜紹介します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05202] 社会教育計画 【平成31年度生まで】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の試験40%							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	社会教育の方法						
第2回	社会教育と学校教育の関係						
第3回	アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情						
第4回	学習成果の活用方法・評価方法						
第5回	教育普及活動						
第6回	アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ						
第7回	ワークシートの要点						
第8回	NPOの役割 アソシアシオン法						
第9回	市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP						
第10回	アウトリーチの歴史と方法						
第11回	ハンズ・オンとプリーズタッチ						
第12回	リピーターへの視点						
第13回	ボランティアの養成						
第14回	指定管理者制度						
第15回	総括						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義の中で適宜紹介します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
社会教育計画1を履修済みであることが望ましい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							



対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05203] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05211令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単位数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義				
第2回	成人の学習の国際的展開				
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）				
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）				
第5回	生涯教育と生涯学習				
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中				
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院				
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島				
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春				
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠				
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立				
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット				
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護				
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05204] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05212令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取り組み姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	現代青年の文化活動（1）				
第2回	現代青年の文化活動（2）				
第3回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）				
第4回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）				
第5回	子育て・文化協同（1）				
第6回	子育て・文化協同（2）				
第7回	環境問題に取り組む市民（1）				
第8回	環境問題に取り組む市民（2）				
第9回	人権学習（1）				
第10回	人権学習（2）				
第11回	ボランティア活動（1）				
第12回	ボランティア活動（2）				
第13回	青年の自立支援（1）				
第14回	青年の自立支援（2）				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05207] 社会教育経営論 【令和2年度生より】						
期 間	前期（15回）		単位数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説する。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得する。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」						
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）						
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系						
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案						
第5回	社会教育計画の実例の検討						
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化						
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、テーマ別グループ、人材バンク）						
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）						
第9回	社会教育調査とデータの活用						
第10回	学習成果を発表する場づくり						
第11回	子ども読書活動推進計画						
第12回	芸術文化振興に関する計画						
第13回	スポーツ振興に関する計画						
第14回	家庭の教育力向上の支援、親力向上推進計画						
第15回	総括 振り返りとシェアリング						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義の中で適宜紹介します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05208] 社会教育経営論 【令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育						
第2回	社会教育と住民参加						
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割						
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出						
第5回	学習成果の公開と評価						
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク						
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成						
第8回	障害者とともに学ぶ仕組み						
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市						
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村						
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市						
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町						
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市						
第14回	成果発表						
第15回	総括 振り返りとシェアリング						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義の中で適宜紹介します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。社会教育経営論1を履修済みであることが望ましい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05209] 社会教育課題研究【令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種 類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。この授業では、地域住民が主体的に学ぶ社会教育活動の課題について、主として地域づくり、まちづくりに関する実践例を取り上げて、相互に検討していきたい。授業の性格上、参加者が主体的にテーマを決めて参加してほしい。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会教育制度及びその理念、社会教育施設の役割、職員の任務を理解する。社会教育活動が直面する所課題について、理解する。参加者が主体的にテーマを決め、学習し発表・討論する力を身につける。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義・演習の併用方式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君にも報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	社会教育の理念と制度				
第3回	ユネスコ学習権宣言とその展開				
第4回	戦後日本社会の変容と社会教育の課題				
第5回	地域開発、公害問題				
第6回	森林保護と漁業の発展				
第7回	原子力発電をめぐる諸問題				
第8回	少子高齢化、過疎化とまちづくり				
第9回	日本社会の格差と貧困				
第10回	子ども食堂				
第11回	義務教育費の無償化とまちづくり				
第12回	性的マイノリティの人権				
第13回	地域づくり実地調査...柴又、谷中、根津、千駄木				
第14回	社会的ひきこもり者支援				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05210] 社会教育演習【令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）	種 類 演習
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。地域住民が主体的に学ぶ拠点である社会教育施設の具体的役割について、実践的に学ぶことを目的とします。身延町をはじめ山梨、長野、東京各地の公民館活動、住民が企画する学びの実態について具体的事例を通して学びます。必要に応じて、文献研究、実地調査も行います。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
地域における人々の学びの拠点である社会教育施設の機能、学習支援者としての職員の枠割を理解する。学習講座企画と省察を通して、社会教育支援者としての実践的力をつける。グループ活動を通して、仲間と共に探求、実践し、地域社会を形成する力をつける。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
演習形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君に発表をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
発表を含む期末レポート70%、授業への取り組み姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	学びの拠点としての社会教育施設				
第3回	学習支援者としての社会教育主事の専門性				
第4回	身延町の社会教育施設（公民館）				
第5回	身延町の社会教育施設(中富和紙の里)				
第6回	身延町の社会教育施設（金山博物館）				
第7回	参加者からの講座企画案の検討（1）				
第8回	参加者からの講座企画案の検討（2）				
第9回	環境問題の講座企画事例				
第10回	平和教育の講座企画事例				
第11回	社会の格差と貧困についての講座企画事例				
第12回	家族支援についての講座企画事例				
第13回	文化活動についての講座企画事例				
第14回	地域の過疎化対策についての講座企画事例				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05231] 社会教育主事実習【平成31年度生まで】						
期 間	通年（1回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	--			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会教育主事の実務実践及び諸問題を学ぶために、身延町役場及び身延町教育委員会において、社会教育主事として業務の一部を実習又は補助参加をおこないます。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
身延町役場及び身延町教育委員会においての実習 1週間。身延町役場及び身延町教育委員会の主催する行事の補助 1週間。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
実習内容に関しては、身延町役場及び教育委員会に一任します。実施期間は10月の下旬となっています。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 事前学習は、指導担当職員から指示された課題を必ず行っておくこと。 事後学習は、一日を振り返りながら実習日誌をまとめ、指導担当職員の点検を受けること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
実習先の評価と実習記録の記入内容とを総合的に勘案して行います。。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	実習						
<b>【教科書・参考書】</b>							
実習なのでテキストや参考文献は掲載しません。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
実習中は社会教育主事として業務を実施しますので、社会人としての自覚をもって実習に臨んでください。また、指導担当者の指導及び留意事項は必ず守ってください。なお、実習中の遅刻・早退及び欠席は認められません。学務課が主催する諸資格ガイダンス及び掲示板等で指示されるガイダンスには、必ず参加してください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	社会教育主事資格取得課程

講義名	[05232] 視聴覚教育メディア論【平成31年度生まで】
-----	-------------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

**【成績評価（方法・基準）】**

(1) レポート(30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解)、(2) 授業中・事前・事後小レポート(40%：上記項目1と同じ)、(3) 授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献(30%)

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス. 明石書店. 2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態. 日本教育方法学会. 学文社. 2009年。授業研究と学習過程. 秋田喜代美. 放送大学教育振興会. 2010年。授業研究と教育工学. 教育工学選書 第6巻. 水越敏行他. ミネルヴァ書房. 2012年。教育の方法と技術. 平沢茂 編著. 図書文化社. 2014年。幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領, 特別支援学校学習指導要領。

**【学生へのメッセージ】**

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点, 改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。



**【オフィスアワー】**

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

**【実務経験】**

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09005] 文法 (Grammar )						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験 ( JLPT ) N2のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：～とき・～直後に、2課：～している (進行中)						
第3回	3課：～後で、4課：範囲の始まりと終わり・その間						
第4回	5課：～だけ、6課：～だけではなく・それに加えて						
第5回	7課：～について・～を相手にして、8課：～を基準にして						
第6回	9課：～に関連して・～に対応して、10課：～や～など						
第7回	11課：～に関係なく・無視して、12課：強く否定する・強く否定しない						
第8回	13課：～ (話題) は、14課：～けれど						
第9回	15課：もしそうなら・たとえそうでも、16課：～だから (理由)						
第10回	17課：～だから (理由) 、18課：～できない・困難だ・～できる						
第11回	19課：～を見て評価すると・～の立場で評価すると、20課：結果はどうなったか						
第12回	21課：強く言う・軽く言う、22課：～だろうと思う						
第13回	23課：感想を言う・主張する、24課：提案する・意志を表す						
第14回	25課：強くそう感じる・思いが強いられる、26課：願う・感動する						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N2』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N2 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 [ <a href="https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html">https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html</a> ]							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09006] 文法 (Grammar )						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	第2部1課：文の組み立て ; 決まった形						
第2回	第2部2課：同上 ; 名詞を説明する形式						
第3回	第2部3課：同上 ; 接続に注意						
第4回	第3部1課：時制						
第5回	第3部2課：条件を表す文						
第6回	第3部3課：視点を動かさない手段 ; 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け						
第7回	第3部4課：同上 ; 「～てくる・～ていく」の使い分け						
第8回	第3部5課：同上 ; 受身・使役・使役受身の使い分け						
第9回	第3部6課：同上 ; 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け						
第10回	第3部7課：指示表現「こ・そ・あ」の使い分け						
第11回	第3部8課：「は・が」の使い分け						
第12回	第3部9課：接続表現						
第13回	第3部10課：省略・繰り返し・言い換え						
第14回	第3部11課：文体の一貫性						
第15回	第3部12課：話の流れを考える						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 <a href="https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html">https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html</a> 〕							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09007] 文法 (Grammar )						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	1 課：時間関係、2 課：範囲の始まり・限度						
第3回	3 課：限定・非限定・付加、4 課：例示						
第4回	5 課：関連・無関係、6 課：様子						
第5回	7 課：付随行動、8 課：逆接						
第6回	9 課：条件、10課：逆接条件						
第7回	11課：目的・手段、12課：原因・理由						
第8回	13課：可能・不可能・禁止、14課：話題・評価の基準						
第9回	15課：比較対照、16課：結末・最終の状態						
第10回	17課：強調、18課：主張・断定						
第11回	19課：評価・感想、20課：心情・強制的思い						
第12回	模擬試験						
第13回	模擬試験						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 <a href="https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html">https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html</a> 〕							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09011] 作文 (Composition)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への参加姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション						
第2回	代名詞の使い方 1						
第3回	代名詞の使い方 2						
第4回	代名詞の使い方 3 まとめ						
第5回	接続詞の使い方 1						
第6回	接続詞の使い方 2						
第7回	接続詞の使い方 3 まとめ						
第8回	モノの表現法 相違点と相似点 1						
第9回	モノの表現法 相違点と相似点 2						
第10回	モノの表現法 相違点と相似点 3						
第11回	意見を述べる 1						
第12回	意見を述べる 2						
第13回	意見を述べる 3						
第14回	課題作文 (原稿用紙を使用)						
第15回	課題作文 (レポート用紙を使用)						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09012] 作文 (Composition)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
講義への取り組み姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション 日本語能力試験にむけて						
第2回	まぎらわしい表現 1						
第3回	まぎらわしい表現 2						
第4回	まぎらわしい表現 3						
第5回	使用されている間違った日本語表現 接続詞						
第6回	使用されている間違った日本語表現 否定						
第7回	使用されている間違った日本語表現 敬語						
第8回	使用されている間違った日本語表現 代名詞						
第9回	使用されている間違った日本語表現 口語表現						
第10回	中間報告 レポート作成						
第11回	討論 その1						
第12回	討論 その2						
第13回	討論 その3						
第14回	課題・報告書作成						
第15回	課題・報告書作成						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09013] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本人の会話レベルの聴解ができるよう、さまざまな状況下の「会話」や近年の「時事」について、テキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等についても取り上げ、幅広く内容理解ができるようにする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
この授業では、受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力検定試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。基礎的な聴き取りから複合的な内容まで含め、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、実践的な日本語の理解・習得を図る。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション 簡単な聞き取り						
第2回	会話 (その1)						
第3回	会話 (その2)						
第4回	会話 (その3)						
第5回	会話 (その4)						
第6回	会話 (その5)						
第7回	会話 (その6)						
第8回	会話 (その7)						
第9回	会話 (その8)						
第10回	時事 (その1)						
第11回	時事 (その2)						
第12回	時事 (その3)						
第13回	時事 (その4)						
第14回	時事 (その5)						
第15回	まとめ 聴解 への布石						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。練習の方法は授業で解説します。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25、木曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25							
<b>【実務経験】</b>							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09014] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本人の会話レベルの聴解ができるようテキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等について、学生が調べ、プレゼンテーションをする機会を設ける。日本語能力試験を視野に、練習問題に取組むことで、必要なスキルを修得する。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
この授業では、聴解に引き続き、日本語能力検定試験合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。複雑な内容でも、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、さらなる実践的な日本語の理解・習得を図る。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション						
第2回	練習問題 (その1)						
第3回	練習問題 (その2)						
第4回	練習問題 (その3)						
第5回	練習問題 (その4)						
第6回	練習問題 (その5)						
第7回	練習問題 (その6)						
第8回	練習問題 (その7)						
第9回	練習問題 (その8)						
第10回	練習問題 (その9)						
第11回	練習問題 (その10)						
第12回	練習問題 (その11)						
第13回	練習問題 (その12)						
第14回	模擬試験・解説 (その1)						
第15回	模擬試験・解説 (その2)						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
<b>【実務経験】</b>							
峡南地域就学相談員							



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09016] 会話 (Conversation)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
目的に応じた自然な会話や口頭発表ができるように、実際の場面を模擬的に体験、練習する。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テストおよび発表 (50%) により総合的に判断します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	好きなシーンを紹介しよう						
第2回	子どもたちに母国の行事を紹介しよう						
第3回	グラフや表を説明しよう						
第4回	困った状況を伝えて交渉しよう						
第5回	不満に対処しよう						
第6回	就職試験制度について説明しよう						
第7回	働くことの意義について討論しよう						
第8回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討						
第9回	身延中学校での交流授業に向けて：発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習						
第10回	スピーチコンテストのリハーサル						
第11回	身延中学校での交流授業に向けて：プレゼンテーション						
第12回	心に残る言葉						
第13回	留学生生活を振り返って						
第14回	将来の夢を語ろう						
第15回	まとめ・発表						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09018] 漢字 ( Chinese Character )						
期 間	後期 ( 15回 )		単 位 数	選 択 ( 1 )		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導していく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 ( N 1 ) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その1						
第3回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その2						
第4回	訓読みを覚えよう その1						
第5回	訓読みを覚えよう その2						
第6回	難しい読みを覚えよう その1						
第7回	難しい読みを覚えよう その2						
第8回	語彙で覚えよう その1						
第9回	語彙で覚えよう その2						
第10回	語彙で覚えよう その3						
第11回	語彙で覚えよう その4						
第12回	いろいろな覚え方をしよう その1						
第13回	いろいろな覚え方をしよう その2						
第14回	新聞を読もう その1						
第15回	新聞を読もう その2						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『日本語能力試験対策、日本語総まとめN1』（アスク出版）2010年。他に『漢字マスターN1』（三修社）2011年も用いる。参考書：『漢字ビギナーズ、24の法則でわかる』武部良明（アルク）2014年。ほか講義時に指示する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09019] 語彙 ( Vocabulary )						
期 間	前期 ( 15回 )		単 位 数	選 択 ( 1 )		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 ( N 1、N 2 ) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
毎回の演習50%、課題50%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学学習は、事前学習と事後学習がとても重要です。たくさん課題も出しますががんばって受講してください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09021] 漢字 (Chinese Character)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導してゆく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回						
第3回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回						
第4回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回						
第5回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回						
第6回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回						
第7回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回						
第8回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回						
第9回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回						
第10回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回						
第11回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回						
第12回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回						
第13回	言葉の構成について						
第14回	音の変化について						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』。参考書：『漢字引きナース 24の原則でわかる』武部良明 (アルク社) 2014年、『漢字のなりたち (日英対訳)』白川静 (平凡社) 2016年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09022] 語彙 ( Vocabulary )						
期 間	後期 ( 15回 )		単 位 数	選 択 ( 1 )		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 ( N 1、N 2 ) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
毎回の演習50%、課題50%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験 N 1 』 (スリーエーネットワーク) 2011年							
『日本語能力試験問題集 N 1 語彙スピードマスター』 (ジェイ・リサーチ出版) 2011							
『日本人の心がわかる日本語』 森田六郎著 (アスク出版) 2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜2限 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09023] 文法 (Grammar )						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、基本的には読解に力を入れ、その中で必要に応じて文法事項の確認を行っていく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み30%、模擬試験70%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス：テキストの例題をやってみよう						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その1						
第3回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その2						
第4回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その3						
第5回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その4						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その1						
第7回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その2						
第8回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その3						
第9回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その4						
第10回	第3部 実戦問題 その1						
第11回	第3部 実戦問題 その2						
第12回	第3部 実戦問題 その3						
第13回	第3部 実戦問題 その4						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめおよび振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年、 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09024] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 (N1、N2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
毎回の演習50%、課題50%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる。						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版) 2011、『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09025] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験のN1あるいはN2の合格を目標として、指定されたテキストに沿って読解力を高める授業を行う。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験のN1あるいはN2に合格することを目標とする。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業での取り組み：70%、N1あるいはN2模擬試験：30%。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							
<b>【実務経験】</b>							
なし							



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09026] 会話 (Conversation)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
この授業では「話す」技能に焦点をあて、日常生活の会話が円滑にできるよう毎回テーマを決め、発表をする機会を設ける。またテキストやディスカッション、ロールプレイを通して多角的に「話す」力の向上ができるよう、授業展開をする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験および発表 (50%) により総合的に判断します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション						
第2回	自己紹介で好印象を与えよう						
第3回	きっかけを話そう						
第4回	町の様子を話そう						
第5回	健康について話そう						
第6回	自分の特技について伝えよう						
第7回	言い換えて説明しよう						
第8回	印象に残った出来事を話そう						
第9回	比べて良さを伝えよう						
第10回	動きの順序を説明しよう						
第11回	ストーリーを話そう						
第12回	最近の出来事を話そう						
第13回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その1						
第14回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その2						
第15回	まとめ・発表						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
<b>【実務経験】</b>							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[01301] 仏教美術史【資格06301】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	--	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏教美術史					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義は日本の仏教美術、特に一般的に言われている日本史との相違について探求する。本講義を受講することにより飛鳥から安土・桃山時代までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
時代順に沿って、スライド・写真・ビデオ等を用いて授業を進めていく。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認試験50%、授業への取り組み姿勢25%、事前学修・事後学修25%。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	仏像の誕生以前、大月氏・バクトリア				
第2回	ガンダーラ・マトゥーラ				
第3回	仏教美術の東進、シルクロードの石窟、北魏様式等				
第4回	法隆寺の建立と法隆寺再建論・非再建論				
第5回	法隆寺・薬師寺、飛鳥・白鳳彫刻				
第6回	興福寺から東大寺へ、天皇家・藤原氏と壬申の乱から長屋王の変				
第7回	東大寺法華堂と天平美術				
第8回	東大寺大仏建立				
第9回	貞観・弘仁彫刻、東寺と密教美術				
第10回	阿弥陀信仰と藤原彫刻				
第11回	平等院と定朝様式の完成				
第12回	京都仏師と慶派の興亡				
第13回	東大寺南大門と運慶・快慶				
第14回	三十三間堂と鎌倉美術				
第15回	まとめと確認				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日本の美術』（至文堂）/ 『日本の国宝』（朝日新聞社）/ 『原色日本の美術』（小学館）。参考書：進捗状況を鑑み、随時指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
特になし					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[01302] 仏教と文学【資格06302】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	--	
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
様々な国の文学を通して宗教、仏教を考えるきっかけとなる授業です。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義はインドから始まって、中国、韓国、日本へと伝わって来た仏教や、キリスト教・イスラムなどの宗教の波はどのように文学に影響を与えてきたのかを探求します。本講義を受講することにより、それぞれの宗教文学作品から短めな例を用いて諸宗教文学と仏教文学を比較検討することができます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
プリントを読んで、多少の歴史を学んで、話し合います。西遊記とDaVinci Codeの回はビデオとDVDを用います。中間発表で日本以外の国の文学について自習的に研究して発表し、総合発表では、日本の文学について調べて発表してもらいます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
中間発表25%、総合発表25%、授業への取り組み30%、学力確認試験20%。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	どんぐりと山猫 日本				
第2回	西遊記 中国)				
第3回	杜子春 中国版vs日本版)				
第4回	中国の仏教文学に大きな影響を与えた道教(老子・荘子・天問) 中国)				
第5回	韓国の昔話 日本と比較しましょう)				
第6回	三国史記 韓国)				
第7回	春香伝 韓国				
第8回	中間発表				
第9回	千夜一夜 アラビア)				
第10回	日本文学				
第11回	往生要集vs.Danteの神話の天国と地獄				
第12回	ベトナムとラオスの昔話 日本と比較しましょう)				
第13回	DaVinci Code				
第14回	古事記と日本書紀				
第15回	まとめ及び振り返り				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：プリントを用意いたします。参考書：受講生の興味に応じ、適宜指示します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
知らない国のほんの少しの知識を身につけることで、シルクロードを渡って来た仏教、そしてイスラム・キリスト教など他の宗教がどのように人々の考えを変えたかについて事前に学習し、もっと知りたいと興味を持って復習してほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日 5 時限					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01303] 古典文学を読む						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	--			
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
古典文学をはるか昔の人々のものではなく、語り合っ作詞して自分のものにしていく楽しい授業です。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
日本文学を代表する数々の作品から、特に枕草子、源氏物語、徒然草、百人一首と方丈記を読み、古典に親しむことを目的とします。本講義を受講することにより、古典文学はもとより、俳句にも親しみ、いつでも自らの気持ちを俳句や川柳などで表現できるようになります。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
作品を読んで、解説をして、いろいろな意見がある場面について話しましょう。中間発表して、授業で扱わない作品や、扱った作品の別な部分について調べて発表していただきます。毎週、終わりの15分を使って、俳句や川柳を与えられた季語やテーマにあわせてみんなで考えます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学修120分 前回までの作品の重要なデータをノートにまとめる。事後学修120分 授業で学習した作品を読み返して、発表の準備をする。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
中間発表30%、学力確認試験40%、授業に対する取り組み30%。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	俳句、川柳						
第2回	枕草子						
第3回	方丈記						
第4回	徒然草						
第5回	御伽草子						
第6回	万葉集						
第7回	中間発表						
第8回	源氏物語（1）歴史的背景と「桐壺」						
第9回	源氏物語（2）身代わりとしての紫						
第10回	源氏物語（3）罪と仏教：柏木、藤壺、六条御息所						
第11回	百人一首						
第12回	百人一首大会						
第13回	源氏物語（4）浮船の様々な選択を考えて						
第14回	往生要集、後期の復習						
第15回	まとめ及び振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：プリントを配ります。参考書：本講義受講中、学生自らの興味より選択します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
難しいと思われがちな古典文学を気軽に楽しめるものだとわかって、好きになっていただきたい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日 5 時限							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目	
講義名	[01331] 仏像の基礎知識				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏像一般についての説明					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
仏像を鑑賞する場合、それぞれ色々な方法があると思う。ここでは仏像の種類・時代などの方面から仏像の基礎知識を身につけ、仏像に触れあうことができるようにしたい。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
仏像は、如来・菩薩・明王などと様々な種類に分けられる。それぞれの姿・技義・制作年代をスライド・図を中心に解説し、できれば実物を鑑賞したい。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前・事後学習とも90分を目途とする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学期末試験50%、授業態度25%、事前学習（予習）・事後学習（復習）25%					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	授業の進め方 仏像の種類について				
第2回	釈迦如来				
第3回	薬師如来				
第4回	阿弥陀如来				
第5回	大日如来・如来両脇侍				
第6回	聖観音菩薩・十一面観音・千手観音				
第7回	文殊菩薩・普賢菩薩				
第8回	如意輪観音・馬頭観音				
第9回	地藏菩薩・虚空蔵菩薩				
第10回	不動明王・愛染明王				
第11回	梵天・帝釈天				
第12回	四天王				
第13回	金剛力士				
第14回	肖像彫刻・羅漢				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
図像辞典 『日本の美術』至文堂 / 光森 正士・岡田 健著 『仏像彫刻の基礎知識』至文堂					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 授業に合わせ身延山内の仏像見学を予定している。その折りには大勢の参加を望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[01332] 仏教彫刻の鑑賞と実践			
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	柳本 伊左雄	ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
仏像制作				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。この授業では実際に仏像を制作する立場から授業を進め、仏像に対する理解を深めたい。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
現在工房ではその時々には仏像の制作が行われている。それらの作業工程を鑑賞する。工房作成のテキスト・石膏原型（仏頭）を用いて如来仏頭の摸刻を行う。制作を行うには個人差がある為、遅れが生じた学生は授業外にも工房にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
作品50%、授業態度25%、事前学習・事後学習25%。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	原型石膏取り 如来仏頭			
第2回	道具作り ノミ研ぎ・木製定規（寸）作成・竹製コンパス作成・木槌作成			
第3回	型紙作成・木取り・墨出し			
第4回	粗彫り1			
第5回	粗彫り2			
第6回	粗彫り3			
第7回	こなし1			
第8回	こなし2			
第9回	こなし3			
第10回	小作り1			
第11回	小作り2			
第12回	小作り3			
第13回	仕上げ彫り1			
第14回	仕上げ彫り2			
第15回	まとめ・批評			
<b>【教科書・参考書】</b>				
工房作成のテキスト・石膏像（仏頭）				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
履修制限あり。実際に仏頭を完成させたいので、作業が遅れた学生は授業外に事前学習・事後学習として彫ってもらおう。ノミ等道具類については工房所有の道具類を使用する。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日5時限以降に行う。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目	
講義名	[01333] 仏教彫刻の鑑賞と実践				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
仏像制作					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日本人にとって、仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。この授業では実際に仏像を制作する場から授業を進め、仏像に対する理解を深めたい。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
現在工房ではその時々々に仏像の制作が行われている。それらの作業工程を鑑賞する。工房作成の動画テキスト・石膏原型（大黒天）を用いて仏像の摸刻を行う。制作を行うには個人差がある為、遅れが生じた学生は授業外にも工房にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
作品50%、授業態度25%、事前学習・事後学習25%。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	粗彫り 1				
第2回	粗彫り 2				
第3回	粗彫り 3				
第4回	粗彫り 4				
第5回	こなし 1				
第6回	こなし 2				
第7回	こなし 3				
第8回	こなし 4				
第9回	小作り 1				
第10回	小作り 2				
第11回	小作り 3				
第12回	仕上げ 1				
第13回	仕上げ 2				
第14回	仕上げ 3				
第15回	まとめと批評				
<b>【教科書・参考書】</b>					
工房作成動画テキスト・石膏原型 (大黒天)					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
履修人数制限あり。実際に仏像を完成させたいので、作業が遅れた学生は授業外に事前学習・事後学習として彫ってもらおう。ノミ等道具類については工房所有の道具類を使用する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日 5 時限以降に行う。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01334] 仏像修復の鑑賞と実践						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実技
対象学年	--	2年	3年	--			
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
仏像修復							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
実践的に仏像修復を経験することにより、仏像を身近に感じてもらいたい。僧職を志す学生には、仏像等を修復に出す場合の知識を身につける。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
現在工房では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、レンの作成を計画しているが、各自の希望による修復関連の実習も考慮する。作業においては個人差もある為、遅れた学生は事後学習として、工房でシラバスの行程に則り作業をしてもらう。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
平常点50%、授業態度25%、作品25%							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	授業内容の説明。						
第2回	修復実例の紹介1、その他実習						
第3回	修復実例の紹介2、その他実習						
第4回	修復実例の紹介3、その他実習						
第5回	修復実例の紹介4、その他実習						
第6回	修復実例の紹介5、その他実習						
第7回	修復実例の紹介6、その他実習						
第8回	修復実例の紹介7、その他実習						
第9回	修復実例の紹介8、その他実習						
第10回	修復実例の紹介9、その他実習						
第11回	修復実例の紹介10、その他実習						
第12回	修復実例の紹介11、その他実習						
第13回	修復実例の紹介12、その他実習						
第14回	修復実例の紹介13、その他実習						
第15回	批評・採点						
<b>【教科書・参考書】</b>							
日本の美術（至文堂）日本彫刻史基礎資料集成（中央公論美術出版）身延山大学仏像修復報告書							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
実習作業を行う為人数に制限がある。道具類については工房の道具を使用させるので、手入れ及び整理整頓には特に注意をするように。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日 5 時限以降に行う。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							



対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[01335] 仏像修復の鑑賞と実践			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 実技
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	柳本 伊左雄	ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
仏像修復				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
仏像修復作業を行う上で漆・金箔作業は重要である。この授業ではこれらの実習（金箔を貼る）を経験することにより修復技術を身近に感じてもらいたい。僧職を志す学生にはこの機会に仏像等を修復に出す場合の知識を身につけてほしい。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
現在工房では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、金箔貼り・彩色を計画しているが、各自の希望による修復関連の実習も考慮する。作業においては個人差もある為、遅れた学生は事後学習として、工房でシラバスの行程に則り作業をしてもらう。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
平常点25%、授業態度25%、作品50%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業内容の説明			
第2回	修復実例の紹介14、その他実習			
第3回	修復実例の紹介15、その他実習			
第4回	修復実例の紹介16、その他実習			
第5回	修復実例の紹介17、その他実習			
第6回	修復実例の紹介18、その他実習			
第7回	修復実例の紹介19、その他実習			
第8回	修復実例の紹介20、その他実習			
第9回	修復実例の紹介21、その他実習			
第10回	修復実例の紹介22、その他実習			
第11回	修復実例の紹介23、その他実習			
第12回	修復実例の紹介24、その他実習			
第13回	修復実例の紹介25、その他実習			
第14回	修復実例の紹介26、その他実習			
第15回	批評・採点			
<b>【教科書・参考書】</b>				
日本の美術（至文堂） 日本の古典装飾(青幻社)。道具及び金箔については工房の物を使用				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
その他必要と思われる事項：受講前に前回のノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行ない、講義内容の理解を深め次回に備えること。図書館で参考文献を読んで欲しい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日 5 時限以降に行う。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[01336] 書道実践			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 実技
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	秋山 恵子	アキヤマ ケイコ	akiyama keiko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
書道史を学びながら、書道の世界を認識し、書のもつ美の芸術域を理解すると共に実技指導を行う。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
楷書や写経又は仮名の実習を通して手書き文字の大切さを学ぶ。日本における文字の変遷について名品を鑑賞しながら理解を深める。指導者の育成にあたる。学童への指導法を学ぶ。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
書とは徳業を積む一つの行学である。事前に目で習い、手習いを重ね、五感を養うよう講義と実技を行う。加えて事後に美術鑑賞や拓本取りなどの体験を積み、自己研鑽として書に対する学習意欲を高めてもらいたい。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習90分：テキストを読み直し、ノートをまとめる。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢50%及び提出作品50%で評価する。書道実践は年度により授業内容が変わります（楷書、写経又は仮名作品評価）				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	書道史、中国・日本の文字の歴史的流れについて			
第2回	書の美を求めて。書の学習の意義を学ぶ			
第3回	書体、書風、字形の研究と創作 又は 写経・仮名実習（第3回～第15回）			
第4回	文房四宝、用材、執筆法の研究と創作（半紙）			
第5回	北魏、随、唐の楷書から学童楷書まで学ぶ（半紙）			
第6回	楷書作品の臨書、鑑賞、制作（条幅） または年度により写経（法華経）の書写を通して小筆の実技指導を行う。第3回～第15回			
第7回	楷書作品の制作（条幅） または年度により卷子制作			
第8回	楷書作品の制作（条幅） または卷子制作			
第9回	楷書作品の制作（条幅） または卷子制作			
第10回	楷書作品の制作（条幅） または卷子制作			
第11回	楷書作品の制作（条幅） または卷子制作			
第12回	楷書作品の完成 または卷子完成			
第13回	生活と書生活の中の書いろいろ（リハビリの書）			
第14回	生活と書 硬筆（漢字と仮名交じりの書）			
第15回	作品及びレポート、他提出			
<b>【教科書・参考書】</b>				
書道の古典（全三冊）大東文化大学書道文化センター編、学童楷書参考手本				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
真の教育として、直筆の必要性和精神の向上ならびに、伝統文化の継承を望む。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
質問などは授業の前後に教室にて対応します。				
<b>【実務経験】</b>				
秋山書道教室松恵書院主宰				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[01337] 仏教文化史【資格06337】			
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
インドの仏教文化を時代ごとに学修する。その後、スリランカや東南アジアで発展した仏教美術を概観する。また、シルクロードと中国の仏教芸術と訳経、日本の寺院建築と美術などにも焦点を当て詳述する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
仏教発祥の地であるインドから伝播した各地域で、それぞれの地域文化と融合しながら、独特の発展を遂げた仏教文化を歴史変遷を辿りながら概観し、仏教文化の史的知識を形成することを目的とする。本講義による到達目標は、各国に伝播した仏教の影響を受けた文化の変遷を理解し、その特徴を把握できることである。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用い、双方向授業を行う。受講生は、積極的に情報を収集して、資料作成に励んでもらいたい。講義に臨む時には、あらかじめ指定された歴史や地域の特徴を調べておくこと。講義後には、地域、年代の特徴とそこに形成された仏教文化の特徴を理解するように努めること。受講生による調べ学習の発表も2回予定している。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を資料ページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約2時間の学修時間を必要とする。事後学修について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を必要とする。発表形式の事前学習は、6時間程度を必要とする。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
期末レポート40%(課題を最終講義日2週間前に提示する)、中間レポート3回×10%=30%(講義の節目となる箇所でもとめるものを指示する)、授業態度評価(講義中に調べ学習によって発表をしてもらう。最低2回×10%=20%+10%(発表者に対する質問や意見など、積極的な授業参加を評価)=30%の計100%によって評価する。発表時の評価はルーブリック形式で行う。シートは事前に示し、了解を得る。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	仏教文化史の研究手法、授業の進め方、評価方法の説明			
第2回	仏教文化の地域区分と年代区分 総論			
第3回	インド - 仏教文学の発祥 と仏教美術の発生 無仏時代からガンダーラ様式とマトウラー様式			
第4回	" インドーグプタ様式とポストグプタ期～サルナート派の成立			
第5回	グプタ様式とポストグプタ期～サルナート派へ			
第6回	シルクロードと仏教文化の伝播			
第7回	中国の仏教芸術－六朝時代と石窟寺院			
第8回	中国の仏教芸術－隋・唐代			
第9回	中国の仏教芸術－宋代以降			
第10回	朝鮮半島の仏教美術			
第11回	日本－黎明期の仏教美術・飛鳥～平安			
第12回	日本－鎌倉以降			
第13回	スリランカの仏教美術			
第14回	東南アジア－ジャワ・スマトラ・クメールの仏教美術			
第15回	東南アジア－ミャンマー・タイ・ベトナム・ラオスの仏教美術			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：特に指定しない。辞典：金岡秀友・柳川啓一共編『仏教文化事典』(佼成出版)他、その国や時代により、適宜授業中に紹介する。必要資料はファイルキャビネットにアップしておくので、各自でダウンロードして、事前に学習に用いること。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
仏教芸術専攻の学生は、必修科目、専門基礎科目であるため、2年次で受講することがのぞましい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		仏教芸術系科目		
講義名	[01339] 世界遺産研究				
期 間	前期 (15回)	単 位 数	選 択 (2)	種 類	講 義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
世界遺産研究					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
身延山大学が行っている、世界遺産ラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトを通してインド・インドシナの世界遺産に指定されている遺跡の学習を行う。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
基本的にはラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトに参加して、実際に修復や調査を行う。プロジェクトの実施がない場合に講義 (スライド・ビデオ等使用) のみで進めて行きたい。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
事前事後の学習として、120分程度を要する。各自問題意識をもって各講義を受講してもらいたい。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
作業報告書あるいは試験50% 受業への取り組み姿勢25%、事前学習 (企画書あるいは予習)・事後学習 (日報あるいは復習) 25%。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	授業の進め方、世界遺産の概略				
第2回	ラオス・ルアンプラバン、ランサーン王朝の歴史				
第3回	ラオス・ルアンプラバンの建築及び町並み				
第4回	ラオス・ルアンプラバン及びピエンチャンの仏像				
第5回	ラオス・ルアンプラバン仏像の修復過程				
第6回	インド・アジャンタ				
第7回	インド・エローラ				
第8回	スリランカ・アヌラーダプラ他				
第9回	タイ・スコータイ遺跡				
第10回	タイ・アユタヤ遺跡				
第11回	ミャンマー・バガン				
第12回	カンボジア・バイヨン (仏教寺院)				
第13回	カンボジア・アンコールワット (ヒンドゥー教寺院)				
第14回	インドネシア・ボロブドゥール (大乘仏教寺院)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
ラオス・ルアンプラバン仏像修復プロジェクト日報及び報告書 (身延山大学東洋文化研究所所報) 紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
世界遺産仏像修復プロジェクトは選抜制で厳しい審査が在る為、だれでも参加できるわけではない。したがってプロジェクト参加が基本なので、受講に際しては必ず担当教員の所まで受講の有無を確認に来ること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[01340] 仏教考古学【資格06340】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	長澤 宏昌		ナガサワ コウショウ		nagasawa kosyo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
あらゆる生命体の中で、人間だけが行ってきた葬送行為やその儀礼を知ることは、言い換えれば人間らしさを確認することでもある。魔の歴史を通じて改めてそれを意識すると同時に、葬送行為を簡略化もしくは不要なものとする現代社会の実態を知ること、僧侶を目指す学生諸君がこれから何を為すべきかを、学生とともに考える。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
仏教考古学とは、遺跡からの出土品と寺院その他の伝世品を通して、仏教の成り立ちや変遷を調査研究する考古学の分野である。本来、仏教考古学の目的はこれらの遺物にどのような種類や存在意義があるのかを学ぶことであるが、この講義では、考古学の成果に基づき仏教受容に重要なかわりがある「伝来以前の日本列島の埋葬や信仰形態」を理解することに主眼を置き、現代社会で仏教意識が希薄になっている状況との対比を行う。それにより、僧侶を目指す学生に、これから僧侶として何をなすべきかを認識してもらうためである。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義により、埋葬や信仰の歴史及び遺跡出土仏教関係遺物・遺構の概説を行う。日本においては、古墳時代前期以前は基本的には仏教とは無縁であるが、旧石器時代以降、頑なな埋葬や信仰への思いを学ぶことによって、現代社会で急激におろそかにされつつある祖先や家族・一族の繋がりを再確認する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。授業の理解度を確保するため、翌週に前授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括ではこのレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末試験を60%、受講態度（20%）毎回の授業内容をまとめたレポート（20%）を重視する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	仏教考古学の定義と講座内容概説				
第2回	発掘調査の理論・旧石器時代の信仰と埋葬				
第3回	縄文時代の埋葬と信仰 1				
第4回	縄文時代の埋葬と信仰 2				
第5回	弥生時代の埋葬と信仰				
第6回	古墳時代の埋葬と信仰				
第7回	古代・中世の埋葬と信仰				
第8回	近世・近現代の埋葬と信仰				
第9回	伝来した仏教と埋葬儀礼との関わり（古墳と仏教）				
第10回	遺跡にみられる先祖供養の痕跡				
第11回	民俗学から見た先祖観 1				
第12回	民俗学から見た先祖観 2				
第13回	現代社会と先祖観				
第14回	総括				
第15回	まとめと試験				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：長沢宏昌『今、先祖観を問う 埋葬の歴史と現代社会』石文社 初回授業時に頒布する。参考書：仏教考古学講座、仏教考古学辞典（ともに雄山閣）。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講義で学ぶこと、現代社会の仏教を取り巻く状況がいかに乖離しているかに気付いてほしいと同時に、その認識のもと僧侶として何をなすべきかを考えてほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週、授業の前後に教室で受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
住職24年、博物館学芸員20年。葬送の歴史と現代の実態を把握している。					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[01341] 文化財研究			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ		nagasawa kosyo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
文化財は人体に例えればDNAに相当する。これを知ることによって、地域や国の大本（おおもと）を知ることになる。また、現在では知ることのできない、途絶えたモノや習俗などを知ること、現在に伝わる儀礼などの意味を真に理解できる。それらはすべて必要であったからこそ、先人の智慧によって編み出されたのであり、一度途絶えたら、二度と得られないかけがえないものであることを学生に考えてほしい。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
文化財研究とは聞き慣れない抽象的な言葉であるが、遺跡出土遺物や絵画、彫刻、民具などを研究対象として、モノ自体の研究と同時に、それらが作り出された背景や自然環境、さらには使用法を通して、地域の生活を知ることが目的とした学問である。この授業では遺跡出土の埋蔵文化財を中心とした有形文化財を対象とし、「地域」を理解することを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義により、文化財の区分や文化財から何がわかるかを理解し、地域の生活習慣や歴史を明らかにする。また、現代社会においては、あらゆる情報が、大都市から発信されたものに画一化されるが、文化財の研究と保護によって、失ってはならない地域の重要性を再確認する。また、必要に応じて、博物館等の見学を行う。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。授業の理解度を確認するため、翌週に前回授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括では、このレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
期末試験60%、受講態度（20%）、毎回の授業内容をまとめたレポート提出（20%）で評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	文化財研究の意義と講座内容概説			
第2回	文化財とは何か			
第3回	伝世した文化財と危機			
第4回	文化財の現在			
第5回	文化財を伝える			
第6回	どこまで復元するのか			
第7回	文化財の展示			
第8回	文化と技術・縄文時代の酒造り			
第9回	文化と技術・日本酒ができるまで			
第10回	富士山と文化財・富士山とはどのような文化財か			
第11回	富士山と文化財・富士山経ヶ岳の出土遺物			
第12回	民俗文化財・伝承の重要性			
第13回	民俗文化財・葬儀と墓をめぐる民俗			
第14回	総括			
第15回	試験			
<b>【教科書・参考書】</b>				
毎週、講義の初めに必要資料を配付する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
文化財は、その地域の生活を形に示したモノである。これを認識することはまさに地域を知ることであり、学生諸君が将来生活するいかなる場所にも、それぞれの地域の文化と文化財が存在することを意識し、そのことが寺院経営の大きな柱となることを理解してほしい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週、授業の前後に教室で受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
山梨県立考古博物館学芸員20年、山梨県埋蔵文化財センター文化財主事25年。				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[01342] 寺院資料論			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日本の寺院に所蔵されている資料（史料）やその保存建築について、基本的な分類の理解などを中心として理解を深める。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義を受講することにより寺院資料や建築における基礎的知識を得ることができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
資料等を配布して授業を進めるが、建築物を実際に見学しての授業も行う予定である。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
事前事後の学修確認25% 授業に対する取り組み姿勢25% 学力確認レポート50%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	資料護持			
第3回	寺院資料の現状			
第4回	修理と保存の姿			
第5回	卷子・軸装・折り本			
第6回	保存と管理施設			
第7回	保存設備（建築）と目録作成 その1			
第8回	保存設備（建築）と目録作成 その2			
第9回	宝蔵 その1			
第10回	宝蔵 その2			
第11回	虫損とその対策			
第12回	曝涼 その1			
第13回	曝涼 その2			
第14回	その他、宝蔵建築の事例			
第15回	まとめ。			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：適宜、プリントなどを配布する。				
参考書：『寺宝護持の心得』（ISBN4890451218、1996、日蓮宗宗務院）、その他進捗状況を鑑み、随時指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実際の寺院等の見学も行う予定である。日ごろ問題意識をもって講義に取り組んで貰いたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人法養寺代表役員 日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01343] 日本文化史						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
この授業は日本文化とその歴史について、主に仏教からの影響を中心として勉強していきます。日本文化は仏教を始め様々な外来文化を受容する一方、それを独自に改変・展開することで多彩な広がりを見せています。本講義では文学・美術などの芸術作品や、年中行事などの風習・慣習などを糸口とし、古代から近現代に至るまでの日本文化について理解を深め基本的な知識を習得することを、受講生の到達目標とします。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
日本文化について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（50%）により、総合的に評価を行ないます。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	聖徳太子と日本						
第3回	仏教文学（1）：古典						
第4回	仏教美術						
第5回	神仏習合の文化（1）：その諸様相						
第6回	神仏習合の文化（2）：日蓮聖人と神祇						
第7回	唱える仏教（1）：その創出						
第8回	唱える仏教（2）：その展開						
第9回	お盆の諸相						
第10回	葬式の諸相						
第11回	食文化と仏教						
第12回	日本文化創出の試み						
第13回	仏教文学（2）：近代						
第14回	近代知識人の日本文化論（坂口安吾、南方熊楠らを中心に）						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』（吉川弘文館、2014）、蓑輪顕量『日本仏教史』（春秋社、2015）、末木文美士『日本宗教史』（岩波新書、2006）							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
なし							



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				宗教学系科目		
講義名	[01437] 宗教と民俗【資格06434】						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
宗教は民俗（古くから民間社会に根づいてきた風習・習慣）に影響を与え、また同時に民俗は宗教に影響を与えています。このように「宗教と民俗」という切り離せない関係にある二つのトピックを主軸とし、本授業では仏教を始めとする世界の多様な信仰、日本を始めとする各国の文化について理解を深めることを目的とします。本授業を受講することにより、受講生は諸宗教および様々な文化伝統への理解を深め知識を得ることができるでしょう。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
宗教と民俗について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（50%）により、総合的に評価を行ないます。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	インドの民俗						
第3回	仏教とフォークロア						
第4回	仏教と美術						
第5回	神仏習合（1）：その理論と文化						
第6回	神仏習合（2）：祖師たちと神祇信仰						
第7回	葬式の諸相（1）：インド、中国						
第8回	葬式の諸相（2）：日本の葬式仏教、さまざまな供養						
第9回	お盆の諸相（1）：その由来・意味と風習						
第10回	お盆の諸相（2）：日蓮遺文『盂蘭盆御書』講読						
第11回	日蓮遺文に見る民俗						
第12回	世界宗教と民俗：キリスト教、イスラム教の事例						
第13回	隠れキリシタンの文化						
第14回	南方熊楠の視座						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』（吉川弘文館、2014）、蓑輪顕量『日本仏教史』（春秋社、2015）、南方熊楠『十二支考』（岩波文庫、1994）。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				宗教学系科目		
講義名	[01438] 世界宗教史 【資格05142】						
期 間	前期（15回）		単位数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
<p>本学は基本的に日蓮聖人を中心とする仏教の修学を主とするものですが、その理解を深めるためにも、また現代世界の趨勢を知るためにも、世界における宗教の知識と歴史を身につけておくことが必要になります。そこで本講義では、世界の宗教について学びます。前期では、世界でも多くの信者を有する一神教のユダヤ教・イスラム教を中心に取り上げます（キリスト教は後期で）。</p>							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
世界の諸宗教について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
<p>教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。</p>							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
<p>この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。</p>							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
<p>授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（ノート持ち込み可の自由論述形式を予定。50%）により、総合的に評価を行ないます。</p>							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	ユダヤ教 : 概論						
第3回	ユダヤ教 : 国家形成からバビロン捕囚まで						
第4回	ユダヤ教 : ヘレニズム文化以降						
第5回	ユダヤ教 : ラビ・ユダヤ教の時代						
第6回	東洋の宗教: ヒンドゥー教と仏教など						
第7回	イスラム教 : 概論						
第8回	イスラム教 : ムハンマドの登場						
第9回	イスラム教 : イスラム世界の確立						
第10回	イスラム教 : スンナ派とシーア派						
第11回	イスラム教 : スーフィズム						
第12回	世界各地の宗教: ゾロアスター教、マニ教など						
第13回	イスラム教 : イスラム世界の拡大化と近代化						
第14回	イスラム教 : イスラム世界の拡大化と近代化（承前）						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
<p>教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：市川裕『宗教の世界史7ユダヤ教の歴史』2009、佐藤次高『宗教の世界史11イスラムの歴史1』2010、小杉泰『宗教の世界史12イスラムの歴史2』2010</p>							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
キリスト教については後期の「世界宗教史」で取り上げるので、併せて受講することが望ましい。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目	宗教学系科目

講義名	[01439] 世界宗教史
-----	---------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	岡田 文弘	オカダ フミヒロ	okada fumihiro
-----	-------	----------	----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

本学は基本的に日蓮聖人を中心とする仏教の修学を主とするものですが、その理解を深めるためにも、また現代世界の趨勢を知るためにも、世界における宗教の知識と歴史を身につけておくことが必要になります。そこで本講義では、世界の宗教について学びます。前期に取り扱ったユダヤ教・イスラム教に引き続き、後期はキリスト教の歴史を学びます。キリスト教は周知の通り、現在の世界で最も多くの信者を有する巨大な宗教であり、それについて学ぶことは必須といえましょう。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

キリスト教の歴史について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（ノート持ち込み可の自由論述形式を予定。50%）により、総合的に評価を行ないます。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	ガイダンス
第2回	キリスト教前史
第3回	イエスと原始キリスト教
第4回	初期キリスト教
第5回	ローマ帝国とキリスト教
第6回	迫害の時代からコンスタンティヌス革命まで
第7回	十字軍の時代まで
第8回	宗教改革 : その起こり
第9回	宗教改革 : その展開
第10回	近代のキリスト教
第11回	近代のキリスト教
第12回	東方のキリスト教
第13回	東方のキリスト教
第14回	日本とキリスト教
第15回	まとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：松本宣郎『宗教の世界史8キリスト教の歴史1』2009、松本宣郎・高柳俊一『宗教の世界史9キリスト教の歴史2』2009、廣岡正久『宗教の世界史10キリスト教の歴史3』2018。

**【学生へのメッセージ】**

一神教（母体となるユダヤ教、関連の深いイスラム教）については前期の「世界宗教史」で扱うので、併せて受講することが望ましい。

**【オフィスアワー】**

水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）

**【実務経験】**

なし

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			宗教学系科目	
講義名	[01440] 世界の宗教思想【資格05144】				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	諏訪 是隆		スワ ゼリユウ		suwa zeryu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
世界の宗教・思想を概観することによって、視野を広げる目を養っていく。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本学においては、法華経、日蓮教学の理解・習得が基本目的とするが、他の宗教を学ぶことによって自身の宗教理解を深めことを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義によって授業を進めていくが、DVD鑑賞などを使い視覚的に理解を深めていく場合もある。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
日常生活の中で、常に宗教的な意義を考察する。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
出席。講義最終日にレポート提出。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	イントロダクション				
第2回	宗教と文化				
第3回	キリスト教の成立				
第4回	キリスト教と文化				
第5回	キリスト教と哲学				
第6回	世界の宗教				
第7回	世界の宗教				
第8回	仏教以前のインド思想				
第9回	仏教の成立				
第10回	法華経の成立意義				
第11回	中国在来思想				
第12回	中国仏教				
第13回	法華経の内容				
第14回	日蓮聖人と法華経				
第15回	レポート提出				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：特に指定はしない。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
宗教という枠組みを俯瞰的に見ることで、自身と宗教との関わり方が見えてくる。自分なりの宗教を語れるようになって欲しい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			宗教学系科目
講義名	[01441] 現代宗教事情【資格05143】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	金 炳坤	キム ビョンコン		kim byung kon
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
毎年「地域」と「宗教」を選択し集中して学修していく。今年は「韓国」の「仏教」がその対象になる。本授業では、韓（朝鮮）半島を中心として展開し、かつ中国、日本といった東アジアの仏教文化形成にも少なくない影響を与えてきた海東（朝鮮）仏教（Korean Buddhism）の歴史的展開並びにその特質（Koreanized Buddhism）について概説し、東アジア仏教研究のための海東仏教研究の意義と必要性を認識し、その理解を深めることを主眼とする。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
海東仏教の歴史と特質を学習し東アジア仏教研究に対する理解を深めることができる。受講者それぞれの研究意欲や課題設定のための視野を広げることができる。卒業論文に向けての研究の方法を習得し論文作成のためのスキルを高めることができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	ガイダンス、海東仏教通史			
第2回	同上			
第3回	中国仏教と日本仏教			
第4回	海東仏教と日本仏教			
第5回	朝鮮（韓国）仏教の特徴：歴史的背景、普遍性の自覚			
第6回	同上：韓国仏教の思想傾向			
第7回	現代にいたる思惟の諸特徴：序、人間結合の重視			
第8回	同上：個人崇拜の問題、呪術信仰、気概			
第9回	同上：現実的適応性、諸思想の対立と宥和			
第10回	同上：合理的思惟の問題、審美感の問題			
第11回	四国時代の仏教：高句麗、百濟、伽椰、新羅			
第12回	南北朝時代の仏教：統一新羅、渤海			
第13回	高麗時代の仏教			
第14回	朝鮮時代の仏教			
第15回	近代の仏教、まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：授業中に適宜資料を配付する。参考書：『朝鮮仏教史の研究』江田俊雄（国書刊行会）1977年、『朝鮮仏教史』鎌田茂雄著（東京大学出版会）1987年、『チベット人・韓国人の思惟方法』中村元著（春秋社）1989年、『1900-1999韓国仏教100年：朝鮮・韓国仏教史図録』金光植編（皓星社）2014年、『韓国仏教史』金龍泰著・佐藤厚訳（春秋社）2017年、『はじめての韓国仏教：歴史と現在』佐藤厚著（佼成出版社）2019年。その他、授業中に適宜資料を配付する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目	宗教学系科目

講義名	[01442] 現代宗教と葬祭
-----	-----------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ	nagasawa kosyo
-----	-------	------------	----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

葬送行為は、埋葬を中心として13万年前ごろのネアンデルタール人に始まり、現代にまで引き継がれている。ところがこの30年、埋葬と葬送行為を、そして供養を不要なものとする考え方が都市部を中心に急激に広がってきている。その流れは、情報発信力の強い都市部の考え方が当然とされ、右に倣えの方式で地方にも波及している。このままでよいのだろうか。学生とともに現状について考えたい。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

現代社会における葬祭のあり方は、社会環境やライフスタイルの変化に伴って、急激に変化している。本授業では、そうした変化を取り上げ、その背景も含めて理解することを目標とする。あらゆる生命体の中で、人間だけが行ってきた葬送儀礼を無用なものとする今日に考え方は、社会の基本であった家や地域社会の崩壊と密接に関連するのだが、現代社会の実態を、僧侶を目指す学生諸君はしっかりと把握しておくべきである。葬祭業界の現場では働く方にご出講いただく機会も授業日程に盛り込むことができれば、と考えている。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

基本的には講義によって授業を進めていく。講義内容については、まとめて板書していくので、ノート筆記に努めること。みずから筆記し、整理したノートは筆記試験に臨む際にも欠かせないものとなるので、この点、手を抜かないこと。口頭で伝えたことをどのようにノートするかについては、受講生諸君の主体性に任せる。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前・事後学修を通して、ノートの再読・整理と、教科書のほか関連する参考文献の読書に努めること。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業中に、自筆ノートおよび授業中配付資料の持込参照可による試験を実施する（60%）。また、授業への取り組みが大事であるとの考えから、受講態度（20%）、毎回の授業内容をまとめたレポート提出（20%）を重視する。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	現代社会と迷走・供養について
第2回	埋葬と供養の歴史
第3回	現代社会と散骨 1
第4回	現代社会と散骨 2
第5回	現代社会と仏教 文献解題 1
第6回	現代社会と仏教 文献解題 2
第7回	多様化する葬送
第8回	僧侶はどう考えているか 1
第9回	僧侶はどう考えているか 2
第10回	葬祭の現場ではどう考えているか 1
第11回	葬祭の現場ではどう考えているか 2
第12回	葬送の民俗 1
第13回	葬送の民俗 2
第14回	授業のまとめ
第15回	まとめと試験

**【教科書・参考書】**

教科書：『今、先祖観を問う』長澤宏昌（石文社）2016 仏教考古学と共用し、初回授業時に頒布する。参考書：『葬式仏教正当論』鈴木隆泰（興山社）2013 『葬式は、要らない』島田裕巳（幻冬舎新書）2010 なお、必要に応じて関連資料を配布する。

**【学生へのメッセージ】**

葬祭をめぐる変化の具体相を知っておくことは、僧道を志す諸君にとっても必ず役に立つはずである。必須の知識であるといってもよい。しっかり学修してほしい。

**【オフィスアワー】**

毎週、授業の前後に教室で受け付けます。

**【実務経験】**

住職24年、博物館学芸員20年。葬送の歴史と現代の実態を把握している。

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				博物館学系科目	
講義名	[01531] 生涯学習概論 【資格06531】					
期間	前期（15回）		単位数	必修（2）		種類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年		
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経緯と社会的背景、生涯学習と生涯教育の関係、生涯学習と学校教育・家庭教育・社会教育の関係、生涯学習の施策、関係する法令について解説します。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経緯と社会的背景、またそれに対応する国や地方自治体の生涯学習政策について学びます。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
授業中の小テストや課題など60%、学期末試験40%により総合的に評価します。 受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	対話的討論：「生涯学習とは何を指すのか」					
第2回	ポール・ラングラン（Paul Lengrand）の永久教育論（&#201;ducation permanente）					
第3回	波多野完治の解釈 生涯教育から生涯学習へ					
第4回	OECDの「リカレント教育 - 生涯学習のための戦略 - 」1973年					
第5回	土光敏夫と「新しい産業社会における人間形成 長期的観点から見た教育のあり方に関する長期専門委員会」の考え					
第6回	中央教育審議会など国の審議会答申における生涯学習					
第7回	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律（生涯学習振興法、1990年）の内容					
第8回	臨時教育審議会答申に示された「生涯学習体系への移行」					
第9回	国や地方自治体の生涯学習政策					
第10回	家庭教育、学校教育、社会教育の役割と連携					
第11回	「生涯学習に関する世論調査」の推移					
第12回	生涯学習施設					
第13回	生涯学習を支援する専門職とその養成					
第14回	海外の生涯学習の動向					
第15回	総括 振り返りとシェアリング					
<b>【教科書・参考書】</b>						
講義の中で適宜紹介します。						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
試験は、自筆の講義ノートの持ち込みを可としますが、板書された内容を書き写すだけでは答えることができない試験です。板書された内容を理解するために自分の言葉や記号で関係性を書き込むことが大切になります。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。						
<b>【実務経験】</b>						
なし						



対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				博物館学系科目
講義名	[01532] 生涯学習概論 【資格06532】				
期間	後期（15回）		単位数	選択（2）	種類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
生涯学習として学ぶ現代的課題を参加型学習形式や模擬授業として行います。また、地域課題解決の協働活動、まちづくり・地域活性化策としての生涯学習について具体的な事例をあげて解説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
生涯にわたって学習することの意味、生涯学習の現代的課題、国や地方自治体の生涯学習政策、国内外における生涯学習論の系譜などの側面から、生涯学習の方法論について理解します。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	生涯にわたって学習することの意味				
第2回	身近で日常的な生涯学習				
第3回	生涯学習施設で行われている「コト学習」				
第4回	生涯学習の方法論と支援する人材の資質・能力				
第5回	生涯学習としての地域学：掛川の「とはなにか学舎」				
第6回	現代的課題とは何か「三化け」「七化け」「新三化け」				
第7回	高齢化：高齢化社会、高齢社会、超高齢社会				
第8回	少子化の何が問題なのか				
第9回	男女共同参画化とM型社会				
第10回	地域課題解決の協働活動としての生涯学習				
第11回	まちづくり・地域活性化策としての生涯学習				
第12回	開かれた学校から学社連携・学社融合への移り変わり				
第13回	まなびネットとキャンパスネットワークシステム				
第14回	放送大学、市民大学、シニア大学				
第15回	総括発表 振り返りとシェアリング				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義の中で適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			博物館学系科目
講義名	[01533] 博物館概論【資格06533】			
期間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
現在も多種多様な博物館が全国各地で誕生している。この博物館のあり方を考える場合、その館の性格や社会的機能を正確に把握することが必要である。授業では、博物館の定義から博物館の今日までの歴史をたどり、博物館が現代社会に果たしている役割についてみていくことにする。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
博物館とはどういう施設か理解することを到達目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
生涯学習社会にあって、市民の学習ニーズが多様化、高度化しており、博物館への期待が高まるばかりである。これをとらえていくために、新しく開館した博物館を例にとり、その役割や活動内容についてみていきたい。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修120分 該当するテキストの部分を読んでおくこと。 事後学修120分 授業で学んだ主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト70%、授業に取り組む姿勢30% 学力確認テストはテキスト・ノート等持込不可。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	博物館で学ぶ内容			
第2回	博物館の定義			
第3回	博物館の目的			
第4回	博物館の種類			
第5回	博物館の分類			
第6回	博物館の組織と運営			
第7回	博物館学芸員の役割			
第8回	博物館の歴史 世界			
第9回	博物館の歴史 日本			
第10回	生涯学習と博物館			
第11回	地域社会と博物館			
第12回	文化財保護と博物館			
第13回	学校教育と博物館			
第14回	博物館関連法規			
第15回	総括			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）、参考書：高橋順一訳 『博物館体験』（雄山閣）、村上義彦 『新しい地域博物館活動』（雄山閣）。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生に受講してもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業の開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付ける。				
<b>【実務経験】</b>				
博物館学芸員として勤務経験がある。				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[01534] 博物館資料論【資格06534】				
期間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
博物館が担う役割として、資料の収集・整理・保存・展示・調査研究・教育普及活動といった活動があるが、その中で資料がどのような位置を占めているのか講義していく。特に、博物館資料の種類・分類・整理の方法について、寺院博物館資料を例に講義していきたい。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
博物館資料にはどのようなものがあるか把握できることを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
広く博物館学を学ぼうとする学生を対象とするが、博物館学芸員として必要な知識を習得してもらうため、専門的かつ実務的な内容にするつもりである。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分 該当するテキストの部分を読んでおくこと。事後学修120分 授業で学んだ主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート（40%）、授業に取り組む姿勢（60%）によって評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	博物館資料とは				
第2回	博物館資料の種類（1）				
第3回	博物館資料の種類（2）				
第4回	博物館資料の種類（3）				
第5回	寺院博物館の資料（1）				
第6回	寺院博物館の資料（2）				
第7回	寺院博物館の資料（3）				
第8回	博物館資料の収集（1）				
第9回	博物館資料の収集（2）				
第10回	博物館資料の整理（1）				
第11回	博物館資料の整理（2）				
第12回	博物館資料の調査方法（1）				
第13回	博物館資料の調査方法（2）				
第14回	博物館資料の調査方法（3）				
第15回	総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）、日蓮宗勸学院監修『寺宝護持の心得』（日蓮宗新聞社）、参考書：青木豊『博物館技術学』（雄山閣） 国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』上・下（柏書房）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生に受講してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の開始前、終了後に質問等があれば対応する。					
<b>【実務経験】</b>					
博物館学芸員として勤務経験がある。					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			博物館学系科目
講義名	[01535] 博物館情報・メディア論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	海老沼 真治		エビヌマ シンジ	ebinuma shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
博物館では、収蔵資料に関する情報、学芸員による調査・研究によって得られた情報など、膨大な量の情報を取り扱います。こうした情報は、最終的には広く公開して社会に還元し、利用者に活用してもらうものですから、誰にでもわかりやすい形で記録し、発信される必要があります。この授業では、博物館における情報の集積・管理・活用や、博物館情報を活用するための様々なメディアに関する基礎知識について概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
博物館において情報をいかに集積・管理するか、集められた情報をどのように公開するか、その場合にどのような媒体（メディア）を用いるか、発信にあたり留意するべき点は何か、などの課題について考えることを通して、受講者が博物館における情報・メディアの取り扱いについて理解を深めることを目標とします。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
博物館情報・メディアに関する一般論的な講義とともに、様々な博物館の事例を取り上げ、受講者とともに考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また、博物館の実地見学を行い、実際に博物館で行われている情報管理・発信の状況を説明することも予定しています。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習90分 テキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学習90分 配布したレジュメを読み直すとともに、紹介した博物館のウェブサイト等を確認する。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
期末レポート40%、授業への取組の姿勢60%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情			
第2回	博物館における情報・メディアの意義（1）			
第3回	博物館における情報・メディアの意義（2）			
第4回	博物館情報の蓄積と管理			
第5回	博物館資料のデータベース化（1）			
第6回	博物館資料のデータベース化（2）			
第7回	博物館資料のデジタル化（デジタル・アーカイブス）			
第8回	情報の公開（1）館内における情報公開			
第9回	情報の公開（2）インターネットによる情報公開			
第10回	情報の公開（3）情報の公開と保護			
第11回	博物館と知的財産			
第12回	博物館の情報をめぐる環境			
第13回	事例研究（1）山梨県立博物館における情報管理			
第14回	事例研究（2）山梨県立博物館における情報公開			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版 2012年2月）、基本的にはレジュメを配布して授業を進めます。参考書：大堀哲・水嶋英治編著『博物館学』（学文社、2012年11月）、日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年3月）、西岡貞一・篠田謙一『博物館情報・メディア論』（放送大学教育振興会、2013年3月）そのほか、講義の内容に応じて紹介します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実際に博物館の見学を行うので（事例研究1,2）、出席を重視します。博物館は時代の移り変わりとともに、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。現在では博物館も様々なメディアを用いて情報発信を行っています。ホームページだけでなく、フェイスブックやツイッターなど、様々な手段で博物館の情報を収集してみてください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				

**【実務経験】**

山梨県立博物館学芸員（15年）。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			博物館学系科目
講義名	[01536] 博物館展示論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	保坂 康夫		ホサカ ヤスオ	hosaka yasuo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
博物館展示論とは、博物館学の一分野である。展示は、学び体感しようとする主体が集う生涯学習の場である博物館の活動の根幹である。収集資料を調査研究し、新たに生み出した知識体系を示すのが展示であり、学芸員として最も腕が示される場面である。半面、資料収集の保存にとっては危険を伴う局面でもあるのが展示である。こうした展示を計画、実行、評価、改善するための必要不可欠な知識や認識について解説する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
学芸員資格を獲得するための必修科目である。見学者の展示について理解が着実に進み、収集資料にとって最適な展示を行う理論と方法を習得するとによって、実際に博物館事業を推進するための基盤を獲得することを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義により、博物館展示の内容と方法を概説する。タブレットなどのICT機器を活用して、注目される博物館展示について検索、分析する。なお、より一層理解を深めるために具体的に、博物館の展示の実際を見学する。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習120分、教科書をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分、教科書、配布資料を読み直し、ノートをまとめる。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力認識テスト60%、授業への取り組み姿勢（プレゼンテーションの内容など）40%で評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	展示の目的とその歴史			
第2回	展示資料の調査と収集			
第3回	展示の構想と企画			
第4回	展示の設計、施行			
第5回	展示と法令			
第6回	博物館展示の実際（博物館見学）			
第7回	展示の環境と設備、見学博物館のプレゼンテーション			
第8回	展示作業			
第9回	展示の照明と音響			
第10回	展示と解説・展示解説書の作成			
第11回	人文系の展示（ICT機器による検索調査）			
第12回	自然系の展示（ICT機器による検索調査）			
第13回	展示のあり方			
第14回	博物館展示の総合的検討			
第15回	博物館展示論のまとめと総括			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書 「新時代の博物館学」（芙蓉書房出版）および配布資料 参考書 「博物館学」（学文社）、「博物館展示法」新版博物館学講座9（雄山閣）				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
今求められている博物館の展示とはいかなるものか、実際の博物館展示はどのようなものがあるか、展示手法による見易さ、理解しやすさ、楽しさを考える。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
山梨県立考古博物館学芸課長6年。				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[01537] 博物館教育論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	保坂 康夫		ホサカ ヤスオ		hosaka yasuo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
博物館教育論は、博物館学の一分野で、社会教育施設としての博物館を認識するための授業である。人間の教育に対する考え方は常に変化しているが、基本的には学習しようとする主体性を引き出し、育てることが重要である。教育には学校教育と生涯学習とがあるが、博物館教育は両者にかかわり、学習の機会と素材とを提供し続けることが求められている。これらに対応可能な、博物館内外での活動についての理念と方法論を解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
学芸員資格を獲得するための必修科目である。博物館教育に必要な理念と方法論を身につけ、実際に博物館事業を推進するための基盤を獲得することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義により、博物館教育の内容と方法を概説する。タブレットなどのICT機器を利用して検索調査し、プレゼンテーションを行う。なお、より一層理解を深めるために具体的に、博物館の教育実践例を見学する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分、教科書をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分、教科書・配布資料を読み直し、ノートをまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力認識テスト60%、授業への取り組み姿勢（プレゼンテーションの内容など）40%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	博物館教育史				
第2回	世界水準の博物館教育				
第3回	学芸員の教育的役割				
第4回	ボランティアの養成				
第5回	博学連携と生涯学習				
第6回	展示と展示解説				
第7回	博物館見学				
第8回	ワークショップ、見学博物館のプレゼンテーション				
第9回	ハンズオンとアウトリーチ				
第10回	子どものための展示と歴史系博物館・科学館の実践例（ICT機器を利用した検索調査）				
第11回	子どものための展示の動物園・水族館の実践例（ICT機器を利用した検索調査）				
第12回	子どものための展覧（ICT機器を利用した検索調査）				
第13回	教育目標と計画、評価				
第14回	博物館教育論の課題・展望				
第15回	博物館教育論のまとめと総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：「新時代の博物館学」（芙蓉書房出版）および 配布資料。参考書：「博物館学」（学文社）。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
博物館学芸員にとって博物館教育とはどのようなものであるのか、とくに社会的要求にどのように応えるのかを、参加者や見学者の立場に立って考えてほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室で受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
山梨県立考古博物館学芸課長 6年。					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01733] インターンシップ						
期 間	通年（4回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>						
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）						
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。						
第4回	事後の報告書作成と発表会						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特になし。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
自分の将来を見据えて、なすべきことに対して、これまで培ったスキルがどのように役立つかを意識して事前学習を行い、実習に備えるようにしてください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員							



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01736] インターンシップ						
期 間	通年（4回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、インターンシップの経験を踏まえて、自ら積極的な姿勢で就労することによって、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習として、インターンシップを希望する企業等の概要について調べておくこと(5時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること(10時間程度)。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
受け入れ側による評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>(1) 一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>(2) 身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>						
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）						
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。						
第4回	事後の報告書作成と発表会。（1名15分程度）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特になし。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01743] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
就職支援							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
自分の夢や人生の目標を持って豊かなキャリアを築くための基礎をつくること、学生と社会人の違いを考えつつ、社会人として必要な知識や心構えを習得することを主な課題として、4年生の春から本格的にスタートする就職活動に向けて一足早く準備を始めます。また、連絡を取り合う手段として頻繁に使用する電話対応のしかたを学びながら、社会で役立つ知識を習得していきます。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間自分自身について、将来について、考える時間を作ってください。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	スキル開発その1 ビジネス電話						
第2回	スキル開発その2 ビジネス電話						
第3回	スキル開発その3 ビジネス電話						
第4回	スキル開発その4 ビジネス電話						
第5回	スキル開発その5 ビジネス電話						
第6回	スキル開発その6 ビジネス電話						
第7回	なりたい自分になる 夢の叶えかた						
第8回	コミュニケーションの基本その1						
第9回	コミュニケーションの基本その2						
第10回	マナーの基本1						
第11回	マナーの基本2						
第12回	社会人としての心構えその1						
第13回	社会人としての心構えその2						
第14回	知っておきたい法律・規則						
第15回	総括（小論文）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義はプリントを配布します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01744] キャリア教育						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
就職支援							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
全員が希望就職先で内定をもらうことを目的とします。就職面接試験は、あなたの人生を大きく左右するほどのとても大切な分岐点です。自己分析や企業研究のしかた、目的、効果を学ぶことで、あなたに合った就職先を見つけられるようになり、志望動機の書き方や自己アピールの作り方、履歴書の書き方などのコツを学ぶことで、自分の魅力をしっかり伝えられるようになり、また、面接やディスカッションのポイントやコツもお伝えしますので、面接で何を表現し、何を語ればよいのかが分かるようになります。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけではなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日10分間（1週間で70分）自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	就職活動のプロセス						
第2回	自己分析その1						
第3回	自己分析その2						
第4回	企業研究とマッチング						
第5回	志望動機						
第6回	自己アピール						
第7回	履歴書の作成						
第8回	お礼状の書き方						
第9回	面接の種類と対策						
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ						
第11回	美しい姿勢とお辞儀/面接の流れを確認する						
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える（理解する力・伝える力） 質疑応答例						
第13回	ディスカッションその1						
第14回	ディスカッションその2						
第15回	総括（小論文）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
毎講義時にプリントを配布します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01745] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	--			
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
一歩進んだ英語を使えるようになるための授業です。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
主に英語の上級コース、特に学生に必要な英語知識の応用コースを提供します。本講義をすることにより学生はその希望に則した、それぞれのキャリアに役立つ英語の修得できます。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
ここ数年、少人数のため時間を決めて研究室で一对一の学習をしていますが、人数が多いと教室での講義となります。TOEIC狙いの学生にはTOEICの教材を使って、英語で会話を希望のある学生には会話学習の教材で対応していきます。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
この場合、評価は授業への取り組みと試験と宿題を基準に行います。目安として、授業への取り組みと学力確認試験は40%ずつで、課題などその他は20%です。受講前に用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	Pronunciation						
第2回	Greetings						
第3回	You and Your Family						
第4回	Everyday Life in Minobu						
第5回	Future Dreams						
第6回	High School Days						
第7回	中間テスト						
第8回	Reading Comprehension						
第9回	Telephoning						
第10回	Fixing an Appointment						
第11回	Complaints						
第12回	Requests and Offers						
第13回	Specific Career Terminology 1						
第14回	Specific Career Terminology 2						
第15回	まとめと前期試験						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：最初の授業の際、一緒に選びます。参考書：英和・和英辞典 など							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
高度な勉強です。発音などに関しては厳しく指導しますので、しっかり話せるようになりたい方に受講していただきたいです。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日 5 時限							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		キャリア系科目	
講義名	[01753] インターンシップ			
期間	通年（1回）	単位数	必修（2）	種類
対象学年	--	2年	3年	4年
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
将来の就職先について、この授業における就業体験が役立つことを到達目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺、行学寮、宿坊、本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。その際に電子機器を利用してインターネットで調べること。事後学習として、インターンシップで得たことについてまとめ、担当教員に報告すること。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書、および各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしゃ遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
<b>【教科書・参考書】</b>				
特になし。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員と話し合っ決めてください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
インターンシップを行うにあたり、担当教員と話し合いを行うこと。オフィスアワーの時間以外に担当教員に相談する時は事前にメールで面談希望時間を提示すること。 望月真澄 smochi(a)min.ac.jp				
<b>【実務経験】</b>				
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験あり。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01754] インターンシップ						
期 間	通年（1回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
将来の就職先について、この体験が役立つようになることを到達目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。その際に電子機器を利用してインターネットで調べること。事後学習として、インターンシップで得たことについてまとめて担当教員に報告すること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書、および各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしゃ遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特になし。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員と話し合っ決めてください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
インターンシップを行うにあたり、担当教員と話し合いを行うこと。オフィスアワー以外に担当教員に相談する時は事前にメールで面談希望時間を提示すること。望月真澄 smochi(a)min.ac.jp							
<b>【実務経験】</b>							
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験あり。							